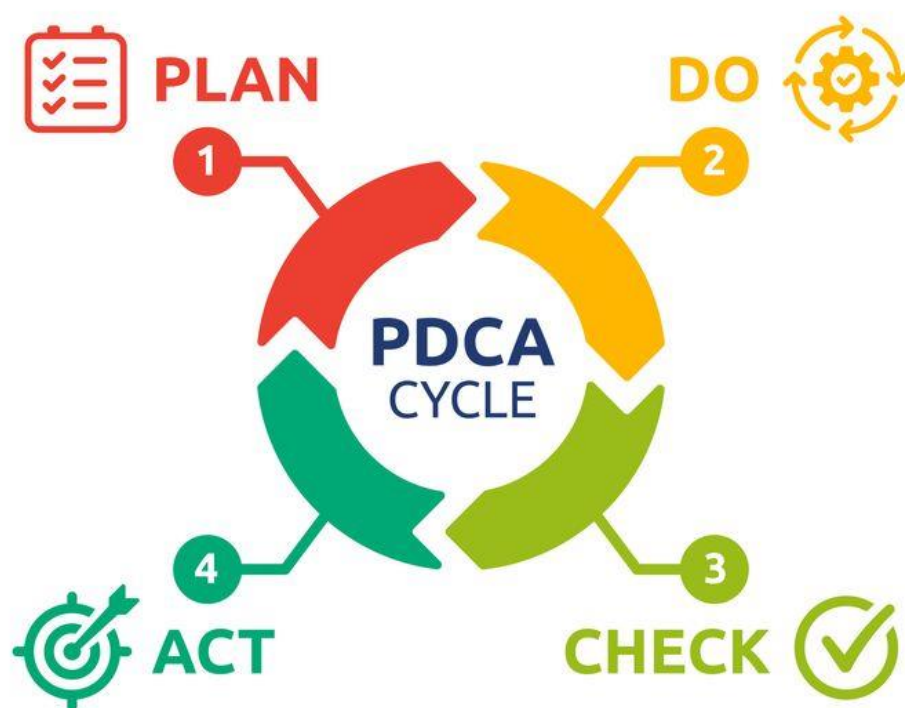


令和5年度分

三朝町教育委員会の事務に関する評価報告書



三朝町教育委員会

目 次

1	はじめに	1
2	目的	1
3	点検・評価の内容	1
4	議会・町民への報告	1
5	評価の対象及び手法	1
(1)	評価対象事業	1
(2)	評価の手法	2
(3)	評価の基準（４段階評価）	2
6	評価結果の概要	2
(1)	内部評価	2
(2)	教育委員会評価	2
(3)	教育行政評価委員会評価（外部評価）	2
(4)	評価結果の総括	3
7	令和５年度施策と成果指標	4
8	評価結果と各委員の意見等	8
(0)	令和５年度三朝町教育事業計画における重点項目	8
(1)	未来を拓く「生きる力」を育てる「みささ教育」の実現	13
(2)	ふるさとを学び・愛する「みささ人（びと）」の育成	16
(3)	安心・安全な教育環境整備と地域と共に歩む学校づくり	19
(4)	生涯スポーツ活動の普及と健康な心と体づくりの推進	21
(5)	生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現	23
(6)	文化、伝統、地域資源（文化財）の継承と芸術の振興	29
9	教育委員の活動状況報告	31
(1)	教育長・教育委員の在任状況	31
(2)	委員の異動	31
(3)	教育委員会会議の開催状況	31
(4)	小中学校及び園への計画訪問	34
(5)	その他の主な活動	34

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の一部改正により、平成 20 年 4 月から教育委員会の責任体制の明確化を図るため、各教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を公表することとされています。

2 目的

地教行法第 26 条の規定に基づき、教育委員会は教育に関する事務の管理や事業の執行状況について点検及び評価を行い、効果的な教育行政の推進に資するとともに、事務事業における透明性の確保と町民への説明責任を果たすことを目的とします。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

3 点検・評価の内容

三朝町教育委員会は、「“ふるさと”を輝かせ 心豊かに学び合う “みささ人（びと）”の育成」を基本理念として令和2年5月に改訂した「三朝町教育大綱」の基本方針と、「みささっ子教育ビジョン」の基本目標及び具体的施策に沿った具体的事業の実績をとりまとめ、それぞれの目標値に照らし合わせた成果と課題を基に内部評価を行った後、学識経験を有する者等の識見を活用するため教育行政評価委員会からの意見を聴取し、客観性を確保するとともに今後の課題や改善策をまとめました。

計画（Plan・教育事業計画）→実行（Do・事業実施）→検証（Check・第三者評価）→改善（Action・事業改善）のPDCAサイクルを回すことにより、教育行政の効果的な事業推進を図ります。

4 議会・町民への報告

報告については、「三朝町教育委員会の事務に関する評価報告書」として議会に提出した後、町のホームページに掲載し、広く町民の皆さんが閲覧できるようにします。

5 評価の対象及び手法

（1）評価対象事業

三朝町教育大綱及びみささっ子教育ビジョンに基づき策定した「令和5年度三朝町教育事業計画書」に掲載した63の具体的事業を対象としています。

(2) 評価の手法

教育行政評価シートにより、内部評価として各事業の実施状況及び成果と課題について事務局で点検・評価を行い、それをもとに教育委員会会議において三朝町教育大綱の基本方針別みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策ごとの評価を実施した後、教育行政評価委員会による外部評価を行って問題点を明らかにし、課題や具体的な改善内容、今後の方向性を検討するとともに、三朝町教育大綱の基本理念に沿った教育行政が執行されているかどうかに着目して評価を行いました。

(3) 評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランク A	80%以上の達成
ランク B	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランク C	やや不十分（59%～40%）
ランク D	不十分（39%～20%）

6 評価結果の概要

(1) 内部評価

内部評価は、令和5年度三朝町教育事業計画において目標値を設定した63の具体的事業について、前述の評価基準により事務局が4段階で自己評価を行いました。

達成度	A	B	C	D
具体的事業数（事務局評価）	43	16	4	0

(2) 教育委員会評価

教育委員会評価は、内部評価の結果をもとに、令和5年度三朝町教育事業計画における重点項目と三朝町教育大綱の基本方針6区分別みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策ごと（全30項目）について、教育委員が評価を行いました。

達成度	A	B	C	D
具体的施策数（教育委員会評価）	17	12	1	0

(3) 教育行政評価委員会評価（外部評価）

外部評価は、内部評価と教育委員会評価の結果をもとに、教育行政評価委員が客観的な見識で4段階評価を行いました。

【令和5年度分 三朝町教育行政評価委員】（順不同）

氏名	選出区分
高見 昌利	地域代表（地域協議会の役員）
吉田 志保	保護者代表（学校の保護者会の役員）
吉田 朋幸	学識経験者

達成度	A	B	C	D
具体的施策数（外部評価）	16	13	1	0

（４）評価結果の総括

令和５年度分の点検・評価において、評価項目ごとに各委員からさまざまな意見や具体的な改善案の提案をいただきました。

まず、令和５年度三朝町教育事業計画において新規で重点項目とした部活動地域移行に向けた取り組みについて、検討委員会を立ち上げて協議を重ねたことは評価するという意見が多数を占める一方、糸口の見えない課題解決について、国や県の動向を待つことなく本町独自の方針を早急に示すべきとの意見も多くいただきました。子どもたちが部活動に取り組める期間は限られており、待ったなしの状況である中、より多くの声を聞きながら、最適な方針を見極めていく必要があります。

そして、令和５年度も引き続いて重点項目とした小学校施設整備事業については、工事完成後の供用開始に向けて細やかな配慮をしていくことと、校舎が隣同士になる小中学校のさらなる連携について期待が寄せられました。加えて、コロナ禍が収束して再開された国内外交流についても全児童生徒が関われる取り組みとなるよう工夫が求められました。これらのことは、みささっ子教育ビジョンで示す目指す子ども像の実現を視野に、本町における将来の教育のあり方を見据えた取り組みとして、関係機関と連携しながら町が一丸となって進めていくことを再確認する形になったといえます。

全体の点検・評価結果をとおしては、継続して取り組んできている多くの事業において、これからも途切れることなく進めていくべきとの意見をいただきました。こうした意見を受け、事務局の各所管においては、継続事業についてこの機会に十分点検を行ったうえで、進めるべきものについては適切に維持発展を図りながら進めていきます。その他、教育委員及び教育行政評価委員の意見については、「８．評価結果と各委員の意見等」に記載しています。

教育活動は、事業の実施による結果が直ちに出来るものは少なく、その成果を示すことが難しいのが実情です。しかし、成果を検証して改善を加えていくという観点から、適切だと判断される数値等の目標を掲げ、課題解決に向けた取り組みを行うことは必要です。三朝町教育大綱における基本理念の実現を目指し、社会の変化や時代の発展を見据えた教育行政を推進するため、教育上必要な需要を的確に把握し、事業の必要性や優先度を十分検証したうえで計画的に事業を執行していくことが重要であり、かつ、限られた財政状況の中で事務の効率化を図り、国県補助等を活用した財源の確保に努める必要があります。

三朝町教育委員会では、今回の評価結果を踏まえた今後の方向性等を次年度の教育事業計画に反映させ、最良と思われる取り組みとして各事業を進めていくこととしており、今後も定期的に事業の点検と評価を実施しながら、必要に応じて積極的な事業の改善や見直しを行い、効果的な教育行政の推進に努めていきます。

7 令和5年度施策と成果指標

三朝町教育大綱基本方針別みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策にかかる具体的事業
※ピンク色は重点事業

教育大綱 基本方針	みささっ子教育ビジョン 基本目標と具体的施策	具体的事業	R5 目標値
(1) 未来を拓く 「生きる 力」を育て る「みささ 教育」の実 現	(1) 確かな学力の育成 Ⅰ. 学ぶ意欲の醸成と学力向上	1. 三朝町教育 I C T 学びの充実推 進事業	小中学校における標準学力調 査の5教科正答率 全国平均 以上 情報モラルを学ぶ機会 通年
		2. 学力アップ土曜学習事業	高校生ボランティア等の参画 による集合学習体制での学習 会実施
	Ⅱ. 教育課題に対応する教育の 推進	3. みささイングリッシュシャワー プログラム	就学前児・小学校低学年への 外国語教室 各月2回
		4. 外国語指導助手活動事業	英検 I B A リーディング・リス ニングテストの総合スコア 英検4級合格レベル以上
	Ⅲ. 特別な教育的支援の充実	5. 学校運営支援員配置事業	特別支援に関する研修会 年 2回 就学前訪問 各園年3回
		6. 通級指導教室事業	小中学校各教室の年間を通じ た適切な運営
		7. 特別支援教育事業	特別支援教育支援員に対する 研修機会の提供
	Ⅳ. 学びの連続性を重視した教 育の推進	8. 園小・園小中連携の推進	園小・園小中連携会議 年10 回以上
		9. 小中連携教育の推進	小中連携教育に関する研修機 会の提供 年1回以上
	(2) 豊かな心の醸成 Ⅰ. 豊かな心の育成	10. いじめ・不登校対策事業	心の状況調査 小学校年1 回、中学校年2回 調査実施後の個別教育相談 年1回以上
		11. 不登校対策支援員配置事業	中学校不登校出現率 前年度 以下
		12. 心の教室相談員設置事業	心の教室利用者数 月平均 20人以上
	(3) 健やかな体の育成 Ⅱ. 健康教育の推進	13. 命を大切にする学習事業	授業実施回数 各校年2回以 上
	(5) 豊かに関わる力の育成 Ⅱ. 多様な交流活動の充実とコ ミュニケーション能力の向 上	14. 中学生フランス交流事業	全校生徒が事業に触れる機会 年3回以上
		15. 中学生台湾交流事業	全校生徒が事業に触れる機会 年3回以上
		16. 小学校相互交流事業	オンラインによる学校間交流 の実施 年1回以上
		17. 大人の背中運動	子どもよりまず大人が相手の 目を見て気持ち良いあいさつ をすることの習慣化に向けた 呼び掛けの徹底
		18. 三朝町・城陽市文化スポーツ交流 事業	参加者数 上限の70%以上 参加児童の交流満足度 70%

教育大綱 基本方針	みささっ子教育ビジョン 基本目標と具体的施策	具体的事業	R5 目標値
(2) ふるさとを 学び・愛す る「みささ 人（びと）」 の育成	(4) ふるさと愛の醸成 Ⅰ. ふるさとを愛する教育の推 進	19. 創意と特色ある学校づくり推進 事業	各校で独自の特色ある学習の 実施
		20. 総合的学習事業	各校で体験学習の実施
		21. みささ町かがやく子どもフェス ティバル開催事業	来場者数 500 人 事業参画団体 10 団体
	Ⅱ. ふるさとに触れる機会の充 実	22. 地域が育てる子ども総合対策事 業	あおぞら体験塾参加者数 40 人／回 体験塾に参加して楽しかった と回答した児童の割合 70%
		23. 青少年育成町民会議補助金事業	時代に即した青少年育成活動 の支援 賛同団体 5 団体以上
	(5) 豊かに関わる力の育成 Ⅰ. 社会参画意識の醸成	24. 青少年団体育成事業	中学生・高校生参画事業の実 施 中高生のボランティア参加
(3) 安心・安全 な教育環境 整備と地域 と共に歩む 学校づくり	(6) 教育コミュニティづくりの 推進 Ⅰ. 地域一円の学校支援	25. コミュニティ・スクール推進事業	学校運営協議会の開催 学校ボランティア登録者のボ ランティア実施率 70%
	(7) 教育環境の充実 Ⅰ. 学校教育における質の向上	26. 教職員指導力向上研修事業	教職員集合研修機会の提供 年 3 回以上
	Ⅱ. 学校施設の整備充実	27. 学校施設維持修繕事業	小中学校緊急的維持修繕への 対応
		28. 小学校施設整備事業	実施設計内容に沿った建設工 事の円滑な進捗管理
		29. 教科書改訂特別事業	学習指導要領改訂及び特別支 援学級への進級に伴う教師用 教科書・指導書、デジタル教 科書等の整備
		30. OA機器等備品整備事業	小学校校務用 P C 更新
		31. 調理センター施設管理事業	施設の確実な点検の実施
	Ⅲ. 児童生徒の通学支援	32. 放課後児童対策事業	利用希望児童受入率 100% 指導員研修の実施 年 1 回以 上
		33. 高校生等遠距離通学費補助金事 業	補助対象生徒の制度利用率 90%
		34. 小中学校遠距離通学費補助金事 業	補助対象児童生徒の制度利用 率 100%
		35. 就学援助事業	対象者への必要な援助の実施

教育大綱 基本方針	みささっ子教育ビジョン 基本目標と具体的施策	具体的事業	R5 目標値
(4) 生涯スポーツ活動の普及と健康な心と体づくりの推進	(2) 豊かな心の醸成 Ⅱ. 情操教育の推進	36. 中学校運動部活動外部指導者派遣事業	必要な外部指導者等の配置 外部指導者 3人、外部指導員 3人
		37. 部活動地域移行に向けた取り組み	部活動地域移行検討委員会の開催
		38. 三朝町スポーツ少年団補助金事業	団員数 160人 単位団指導者研修会、支援の実施
	(3) 健やかな体の育成 Ⅰ. 体力向上の推進	39. スポーツ推進委員活動事業	スポーツ推進委員主催事業の企画・実施（スポーツ教室など）
		40. 三朝町体育協会委託金事業	各種スポーツ大会等参加者数 2,000人
	Ⅱ. 健康教育の推進	41. 食育推進事業	県産地消率 95%以上 園小中の食育取組成果発表年1回 給食レシピ公開 年6回以上
(5) 生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現	(2) 豊かな心の醸成 Ⅰ. 豊かな心の育成	42. 人権啓発講演会等事業	人権講演会・講座等参加者満足度 80%以上
		43. 人権教育推進協議会委託金事業	人権学習機会の創出 学習活動延べ参加者数 1,000人
		44. 人権教育推進員設置事業	人権教育推進員のコーディネートによる人権教育の実施（人権学級、人権出前講座等）
	Ⅱ. 情操教育の推進	45. 移動図書館サービスの充実	各園、子育て支援センター、東学童クラブ計5か所 月1回 各集落・事業所等 24か所 月1回
		46. 子どもたちの読書活動と学習活動を支援	お話会（館内、各園、子育て支援センター、西学童クラブ、バイオリン美術館等） 年88回 小中学校学習資料貸出 3,500冊 中学校図書委員選書・配本年6回 子どもが楽しめる行事 年2回
		47. 乳幼児の読書に親しむきっかけづくり	ブックスタート 4回／年 ブックセカンド 24組 健診時のおはなし会 年6回
		48. 人と本の出会いの場づくり	テーマ選書展示 一般コーナー 10回、児童書コーナー 20回 各種教室の開催 年27回
	(3) 健やかな体の育成 Ⅱ. 健康教育の推進	49. 家庭教育支援推進事業	園、学校における子育て親育ち講座の開催数 園3回、小中学校各1回

教育大綱 基本方針	みささっ子教育ビジョン 基本目標と具体的施策	具体的事業	R5 目標値
(5) 生涯学び、 成長できる 豊かな暮らしの実現	(4) ふるさと愛の醸成 Ⅰ. ふるさとを愛する教育の推進	50. 生涯学習講座「三朝大学」開催事業	高齢者の生涯学習機会の提供 受講者の年間満足度 80%以上
	Ⅱ. ふるさとに触れる機会の充実	51. 気軽に利用しやすい図書館づくり	入館者 25,000 人 登録者 7,000 人 貸出冊数 個人 75,000 冊 団体 15,000 冊 (移動 15,000 冊)
		52. より豊かで質の高い蔵書体系の構築	蔵書 110,000 冊
		53. ニーズに応えるきめ細かなサービスの提供	リクエストサービス 6,500 件 相互貸出サービス 4,000 件 相談業務（リファレンス） 2,000 件 障がい者サービス 500 件
		54. 情報発信の強化	ホームページ更新（月 5 回）
		55. 郷土資料の収集・適正管理保存・提供	新規収集・適正保存 100 冊 展示による周知・継承 年 1 回
		56. 地域住民の活動発表、コミュニティの推進	特集・共催展示 10 回 図書館行事 10 回 ミニ講座 2 回 図書館ボランティア推進 7 人
	(5) 豊かに関わる力の育成 Ⅲ. 視野の広い人材育成の推進	57. 未来を拓けみささっ子創造事業	将来の参考になったと答えた生徒の割合 70%以上
(6) 文化、伝統、 地域資源 (文化財) の継承と芸術の振興	(2) 豊かな心の醸成 Ⅱ. 情操教育の推進	58. 青少年劇場開催事業	開催内容に興味を持った児童生徒の割合 70%以上
		59. 三朝町将棋フェスティバル開催事業	イベント参加者数 80 人 将棋啓発イベントの企画
	(4) ふるさと愛の醸成 Ⅰ. ふるさとを愛する教育の推進	60. 文化振興事業	三朝町文化サークルの支援 三朝町芸能文化祭の実施
		61. 三徳山遺跡発掘調査等事業	神倉「後口山遺跡」調査実施と成果の整理 坂本バイパス計画地の試掘調査実施
		62. 世界遺産登録促進事業	調査成果報告会 年 1 回
		63. 日本遺産活用推進協議会補助金（保存事業）	日本遺産三徳山三朝温泉を守る会の支援

8. 評価結果と各委員の意見等

評価区分

令和5年度三朝町教育事業計画における重点項目

評価の基準（4段階評価）	
ランク	達 成 度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(1) 確かな学力の 育成 I. 学ぶ意欲の醸 成と学力向上	1. 三朝町教育 I C T 学びの充実推 進事業	継続	小中学校におけ る標準学力調査 の5教科正答率 →全国平均以上 情報モラルを学 ぶ機会 →通年	小中学校へオンライン教材（小学校は「タブ レットドリル」、中学校は「すらら」）を整 備した。授業のみでなく、タブレットを持ち 帰った際に家庭でもその教材を活用して学力 向上に励むことができる環境を整備した。 （標準学力調査） 小学校 1～6年 3学期に1回実施 中学校 1～2年 1学期と3学期に実施 3年 1学期に実施 G I G A スクール構想の実現に向けた計画書 に基づき、学校における教育 I C T 機器の活 用を支援するため、I C T 支援員を週2回半 日ずつ各校へ派遣。教材作成や授業支援を 行った。令和5年度は特に今後の教職員の I C T 活用能力の向上のため、I C T 支援員に よる教職員への研修を強化した。 欠席の子への授業オンライン配信も実践して おり、非常時への対応も少しづつ進めてい る。 夏季休業中に、小中学校児童生徒用デジタル 教科書活用研修を実施した。 I C T 活用教育担当者会を学期に1回開催 （県教育D X 推進員も参加）した。	【成果】 ・標準学力調査について、小学校の各学年正 答率は各教科で全て全国平均を上回ってい る。全国比10ポイント以上上回っている学年 や教科もあり、個に応じた「わかる」授業づ くりが進んでいる。ただ、中学校1、2年生 の正答率は社会と英語が同程度、他教科は下 回った。 ・必要な場面を取捨選択して I C T を活用す る教員が増えてきた。抵抗感を示していた教 員が、学習効果の高まりを実感して使用し始 めた。I C T 支援員の研修により、軽微なト ラブルや活用は教師自ら対応可能となった。 学力との相関は、令和6年度以降の学力調査 オンライン化で表れてくると思われる。 持ち帰り学習も進み、学校で児童生徒は自発 的にタブレット学習やタイピング練習をして いるため、タイピングが早く正確になった。 令和4年度までのインターネットモラル教育 の効果が出てきており、児童生徒自身のモラ ル能力が向上したため、モラルを犯す行動や 言動について互いに注意できるようになって きた。各校の情報活用能力カリキュラムに、 「情報社会に参画する態度」を位置付け、情 報モラルについて系統的に学習を進めてい る。 小学校では夏季休業中の自由研究をロイロ ノートで、中学校は宿題がA I ドリルすらら となるなど活用の仕方を工夫している。 【課題】 小学校5年から中学校3年まで算数・数学、 英語のデジタル教科書が国から提供されるに あたり、紙の教科書と比較した良さを見極め ながら効果的な活用を進めていく必要があ る。 調べ学習等では情報を鵜呑みにせず、取捨選 択できる力をつけていくことが必要。 導入から3年以上経過し、端末の不具合や容 量の不足等が原因の不具合が少しずつ増えて いる。 端末を効率的に使うことができるようになって きたが、例えばタイピングの正確性なども 併せて強化していきたい。	B	B	B	◎タブレット学習やオンライン授業等 I C T を活用した学習が着実に浸透してきており、 今後一層の効果的な活用を進めてほしい。ま た、潜在的なトラブルが発生している可能性 もあることから、インターネットモラル教育 は注意深く継続して実施する必要がある。 ◎個人差はあるが、先生方の力量に差がある のを感じる。1時間の授業の中で、あるいは 教科ごとのどの場面でもどんな手法や教材を使 えるのか、効果的な活用についての基本を共 有することができていないのではと感ずること があった。 ◎インターネットモラルについては、事例を 提示しながら、今後も継続してその都度繰り 返し指導していただきたい。 ◎I C T の活用はずいぶん定着してきてい る。以前よりモラル的なトラブルも 減ってきているようだ。 ◎中学生は、今後は活用だけではなく、学ん だ結果を外部に情報発信する機会が増える と、情報モラル的なことも一層身につけてく ると感じる。 ★タブレット学習など I C T の活用が推進さ れ、情報リテラシーの着実な効果が伺われる が、情報モラルの向上へ引き続き取り組んで いただきたい。 ★タブレット学習が年々充実していると感じ る。持ち帰り学習も進んでおり、定着してき ている。 ★その中で、家庭での取り扱い方やモラル的 なことも含めた指導については、繰り返しし ていただきたい。 ★タブレットを使ったいじめ等の事案は発生 していないか？もし発生した時は、早い対応 をお願いしたい。 ★タブレット使用に係るリテラシーの大切さ が言われている。適切な指導をお願いした い。 ★タブレットの大量故障により、他県では教 育長が辞任されたニュースも伺っている。三 朝町のタブレットは大丈夫か？	1. 三朝町教育 I C T 学びの充実推進事業 →情報モラルに関しては、系統的に指導する ことに加え、場面を捉えて即時対応すること も必要であり、今後も適切に指導を継続して いく。 I C T の活用については、学年、学年部単 位での積極的な情報交換、情報共有を行うよ う学校に伝えていく。加えて、中部教育局の 教育D X 推進員の学校訪問や町 I C T 活用教 育担当者会において、他校の取り組みや活用 方法について情報提供していく。 外部への情報発信となると、情報モラルに ついての学習は不可欠であるが、教育課程、 授業時数、発信の意義等さまざまな検討が必 要であることから、学校ごとの判断が大きい と考える。そのような機会がある場合には、 適切な指導を行ったうえでの発信となるよう にしたい。 貸与しているタブレットを使ったいじめは 発生していないが、家庭で与えられたスマホ によるいじめは2件発生している。2件とも 保護者からの連絡によりすぐに学校が対応し ている。今後も事案が起こった場合は、組織 で適切に対応していく。

令和5年度三朝町教育事業計画における重点項目

評価の基準（4段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%） 著実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(1) 確かな学力の育成 Ⅱ. 教育課題に対応する教育の推進	3. みささイングリッシュシャワープログラム	継続	就学前児・小学校低学年への外国語教室 →各月2回	町内各保育園・こども園及び小学校において、教員、小学校外国語指導助手及び外国語活動職員により英語に触れる機会を提供。幼児期から中学校まで切れ目ない本町独自の英語教育を実践した。 保育園での外国語活動 月2回 小学校低学年での外国語活動 月2回 ME S P担当者会 年2回	【成果】 園及び小学校での外国語活動及び英語教育を毎月2回実施した。A L Tが遊びや歌を交えた英語学習を行い、子どもたちは楽しく英語を学んでおり、次の学習時にはその単語や歌を覚えていた。英語を学ぶ楽しさを教えることができたと思われる。 中学校3年生を対象とした英検I B A及び県独自調査では、英検3級レベル以上に到達した生徒は95%となった。 小中担当者会及び園の担当者会を各1回開催し、取り組みの情報共有や令和6年度の方向性を確認した。園の足並みが揃い、保護者も取り組みを高く評価している。 全国学調の結果は、全国及び鳥取県と比べて大きな差はない。A L Tが日本語を使わないことを基本に、「やりとり」の場面で積極的に対話できる学習スタイルを継続している。 【課題】 プログラムに沿って実施するが、A L Tが考えて取り組みたい内容をサポートしていきながら、園と小学校低学年のつながりを充実させていく。 子どもたちにとっての効果的な英語学習が手探り状態であり、学年が変わっても同じことの繰り返しの学習となる可能性があるため、マンネリ化しないような学習の組み立てが課題である。	A	A	A	◎保小で楽しみながら学び、英語に親しんでいく学習は、中学校以降学習効果が表れてくると思われる。引き続きA L Tとも積極的に関わりながら、生きた英語を身に付けてもらいたい。また、英語を苦手としている児童生徒にも温かい指導をお願いしたい。 ◎園から小中までの継続した英語教育の成果が見える。今後の取り組みに大いに期待している。 ◎英語に対しての苦手意識をなくすためにも、園と小学校での英語活動が重要になると考える。英語を身近な楽しいものだという意識付けができるような取り組みを今後も期待する。 ◎英語活動や英語の授業に携わる関係者が、定期的に情報共有や指導法の確認を行うことで本町の取り組みが一層高まると思う。今後も連携会議等を密に行って、子どもたちの力を伸ばしてほしい。 ★保小時期から楽しみながら英語と関わる取り組みの成果が伺われる。引き続き保小の連携ある取り組みをお願いしたい。 ★「英語に親しむ」「英語を楽しむ」「文化に触れる」という視点での幼児期からの取り組みは良いと思う。連絡会を充実させ、取り組んでいただきたい。 ★三朝中学校生徒の英語力は高いと伺っている。海外交流や、イングリッシュシャワープログラム等の成果だと思う。	3. みささイングリッシュシャワープログラム →担当者会を開催し、園小中が共通の認識をもち、発達段階に応じた英語活動、英語学習を進めていくことができるようにする。この会には、各校の英語担当者だけでなく、小学校英語専科、A L T 2名、外国語活動職員も参加するため、よりよい取り組みとなるよう意見交換をしていく。 小学校低学年は外国語活動職員とA L T、3年生以上は英語専科教員とA L Tがしっかり連携をとりながら進めてもらっている。中学校のA L Tも積極的な取り組み姿勢であることから、引き続き子どもたちの英語力向上に取り組んでいくこととする。
				合同園長・校長会の開催 年3回 園小連絡協議会 年2回 三朝町就学指導連絡会 年3回 各所属長による協議や情報交換の場を計画的に設定し、各園学校で取り組んでいることや園児児童生徒の姿、課題等を共有した。子育て12か条の推進についても協議した。	【成果】 連携に係る会議は計画通り実施することができた。加えて、今年度は、園小の接続を意識した架け橋期のカリキュラム作成を目指し、実務者レベルの会を4回実施した。 【課題】 園小、小中の学びがつながっていくために、園小中それぞれの研究について情報を共有する中で、共通項を見出していくことを検討したい。	B	B	B	◎学びや生活基盤を作る架け橋期の学習について、引き続き園小が課題や目的意識をもって連携を図ってもらいたい。 ◎幼保小接続推進リーダー育成事業（県）の指定を令和5～6年度にかけて実践中。以前から実施している園・小連携事業も充実してきているので、連携をさらに充実させ、子どもたちの育ちを共通理解の中で推進してほしい。 ★保小中の一貫した取り組みは重要だと思う。関係者間の情報の共有など更なる連携を期待したい。 ★架け橋カリキュラム作成を目指し、以前よりも連携が深まっている。共通理解しながら進めてほしい。 ★家庭教育においても園小中で共通理解し、協議していただきたい。	8. 園小・園小中連携の推進 →令和5・6年度に県の幼保小接続に係る事業を受けており、園小の連携に関する考え方や架け橋期のカリキュラム作成については大きく前進してきている。今年度も引き続き園小の対話を充実させていく。 家庭教育については、保健だよりや学年通信等各種便りや子育て12か条の取り組みを進めていくことで啓発していく。
(1) 確かな学力の育成 Ⅳ. 学びの連続性を重視した教育の推進	8. 園小・園小中連携の推進	継続	園小・園小中連携会議 →年10回以上	小中連携の重点項目としているICT活用教育、特別支援教育（通級指導）、生徒指導、学校図書館等、担当者による会議を定期的に開催し、連携を進めた。 新校舎運用後を見据え、教育課程上の課題を解決するために、管理職及び教務主任、担当者による協議を行った。	【成果】 各担当で協議したことが、管理職に報告され、さらに学校全体で共有したうえで、それぞれ教職員が動いていくという体制が整いつつある。 【課題】 新校舎運用後を見据え、どのような連携が必要となってくるか、どのような連携が児童生徒の育ちに効果的かを検討していく。	A	A	A	◎小学校の新校舎への移転・運用開始に伴い、三朝町の特長を生かした小中連携の取り組みを図ってもらいたい。 ◎10月に小学校の新校舎が建設され、小中が同じ敷地内となる。教職員の交流をはじめ、児童生徒の交流機会を増やしたり、地域との連携も深めたりしながら子どもたちの育成を充実してほしい。 ★新校舎の運用とともに、小中のこれまで以上の連携効果を発揮していただきたい。 ★目指す児童生徒像に向けて、共通理解しながら連携を深めていってほしい。	9. 小中連携教育の推進 →今年度は各校授業研究会を相互参観することとしており、教員の授業づくりに生かすことができる機会と考えている。 小学校移転後の教職員や児童生徒の交流については、目的や時間数等についても協議していく必要があるため、すぐに実施は困難であるが、将来を見据えどのような連携が必要か、またできるかを検討する機会をつくっていきたい。

令和５年度三朝町教育事業計画における重点項目

評価の基準（４段階評価）

ランク	達 成 度
ランク A	80％以上の達成
ランク B	相当程度達成（79％～60％） 著実に進捗
ランク C	やや不十分（59％～40％）
ランク D	不十分（39％～20％）

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(5) 豊かに関わる 力の育成 Ⅱ. 多様な交流活 動の充実とコ ミュニケー ション能力の 向上	14. 中学生フランス 交流事業	継続	全校生徒が事業 に触れる機会 →年３回以上	コロナ禍のため３年間中止としていた中学生 手作り訪仏事業を４年ぶりに再開し、本町と 友好姉妹都市提携を結ぶフランス共和国ラマ ルー・レ・バン町へ中学生を派遣して、中学 生における豊かな感性と国際感覚を身に付け る機会を提供した。 【派遣期間】 令和５年10月３日(火)～10日(火)の５泊８ 日間 【派遣人数】 生徒６名（応募者11名、倍率1.8倍）、引 率３名 計９名 【実施内容】 パリ・モンパリエ視察、ホームステイ３ 泊、ラマルー町内視察、小・中・高校訪問、 スポーツ・イベント参加交流など 【報告】 プレゼン資料を作成し、中学校文化祭及び 子どもフェスティバルで発表の後、報告書を 各所へ提出 また、全生徒が国際感覚を身に付ける機会と して、以下の取り組みも実施した。 ・給食でフランス料理（小中学校計年１回） ・親子でフランス料理づくり（中学校冬休み 課題としてレシピ提供）	【成果】 訪仏の報告（文化祭）、給食でのフランス料 理提供、レシピの提供と、年３回以上は全生 徒が国際感覚を身に付ける機会を提供するこ とができた。これにより、次年度以降の派遣 応募等への意欲醸成にもつなげることができ たと考えられる。 一先ず派遣交流の再開が果たせたことが何よ りの成果と考える。 【課題】 ３年に渡り事業中止が続いたことで、本事業 の存在感が薄れてしまったことが、事業再開 初年度の応募者数低下につながったと考えら れる。交流の歴史とあり方について再考する タイミングと捉え、丁寧な説明を加えながら 事業の発展を検討していきたい。 その上で、派遣応募等への意欲醸成を見据 え、派遣以外の取り組みについても引き続き 取り組むとともに、コロナ禍に行っていたオ ンライン交流等の再開についても学校と協議 しながら、英語学習を含めた発展的な交流の 形を模索していきたい。	A			◎三朝町の大きな特長である国際交流は、生 徒全員がその意義をしっかりと確認しながら一 人ひとりが何らかの役割をもって取り組んで もらいたい。 ◎これらの取り組みが、全生徒の学びにつな がる工夫を期待している。 ◎コロナ禍で訪問での交流が停止していた が、再会できてよかった。直接訪問して交流 する人数は限られているため、この３年間で 実施していたオンライン交流も充実しなが ら、多くの生徒たちが国際感覚を身に着けて いく機会を設け、学校全体で取り組んでほし い。 ★国際感覚の醸成や異文化交流の手段として の国内外の各種交流活動が、生徒の企画運営 で取られるなど事業の定着化が伺われる が、重要なのは、全生徒が関わり、果実を共 有することにあると思う。引き続き推進をお 願いたい。 ★三朝町教育の大きな特長である。これから も国際感覚を身に付ける機会として提供して ほしい。	14. 中学生フランス交流事業 →令和５年度は３年ぶりに派遣を実施するこ とができたが、コロナ禍の３年間で想定以上 に国際交流に対する意識の希薄が見られ、応 募数の低下にもつながっている。全ての生徒 がフランス交流に関われる取り組みとなる工 夫を引き続き意識し、交流の歴史を学びなが ら全生徒が交流の成果を感じられる取り組み となるよう組み立てを検討したい。
	15. 中学生台湾交流 事業	継続	全校生徒が事業 に触れる機会 →年３回以上	コロナ禍のため３年間中止していた台中市石 岡区との中学生相互交流事業を４年ぶりに再 開し、三朝中学校と姉妹校協約を結ぶ台湾台 中市石岡国民中学との相互派遣を行って、中 学生における豊かな感性と国際感覚を身に付 ける機会を提供した。 【派遣・受入期間】 （派遣）令和５年10月３日(火)～９日(月)の ６泊７日間 （受入）令和５年11月９日(木)～11日(土)の ２泊３日間 【派遣・受入人数】 （派遣）生徒11名（応募者12名、倍率１倍※ 辞退者１名）、引率５名 計16名 （受入）生徒13名、引率６名 計19名 【実施内容】 （派遣）台中市視察、ホームステイ４泊、石 岡区内視察、小中学校訪問など （受入）ホームステイ２泊、授業交流など 【報告】 プレゼン資料を作成し、中学校文化祭及び子 どもフェスティバルで発表の後、報告書を各 所へ提出 また、全生徒が国際感覚を身に付ける機会と して、以下の取り組みも実施した。 ・給食で台湾料理（小中学校計年２回） ・親子で台湾料理づくり（中学校冬休み課題 としてレシピ提供）	【成果】 訪台の報告（文化祭）、給食での台湾料理提 供、レシピの提供と、年３回以上は全生徒が 国際感覚を身に付ける機会を提供することが できた。これにより、次年度以降の派遣応募 等への意欲醸成にもつなげることができた と考えられる。 一先ず派遣交流の再開が果たせたことが何よ りの成果と考える。 【課題】 ３年に渡り事業中止が続いたことで、本事業 の存在感が薄れてしまったことが、事業再開 初年度の応募者数低下につながったと考えら れる。交流の歴史とあり方について再考する タイミングと捉え、丁寧な説明を加えながら 事業の発展を検討していきたい。 その上で、派遣応募等への意欲醸成を見据 え、派遣以外の取り組みについても引き続き 取り組むとともに、コロナ禍に行っていたオ ンライン交流等の再開についても学校と協議 しながら、英語学習を含めた発展的な交流の 形を模索していきたい。	A	A	A	◎三朝町の大きな特長である国際交流は、生 徒全員がその意義をしっかりと確認しながら一 人ひとりが何らかの役割をもって取り組んで もらいたい。 ◎派遣事業だけではなく、定期的なオンライ ン交流によって、全ての生徒が関わり、興味 が持てるような仕組みも必要だと感じる。 ★三朝町教育の大きな特長である。これから も国際感覚を身に付ける機会として提供して ほしい。	15. 中学生台湾交流事業 →令和５年度は３年ぶりに派遣と受入を実施 することができたが、コロナ禍の３年間で想 定以上に国際交流に対する意識の希薄が見ら れ、派遣への応募数や受入希望数の低下にも つながっている。全ての生徒が台湾交流に関 われる取り組みとなる工夫を引き続き意識 し、交流の歴史を学びながら全生徒が交流の 成果を感じられる取り組みとなるよう組み立 てを検討したい。特に、受入において全生徒 の取り組みとなることを意識したい。

令和５年度三朝町教育事業計画における重点項目

評価の基準（４段階評価）

ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%） 著実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
	16. 小学校相互交流 事業	継続	オンラインによる 学校間交流の 実施 →年１回以上	本町と友好都市盟約を結ぶ滋賀県多賀町の小学校２校との児童相互交流を将来的に見据えながら、昨年に引き続き学校間でオンラインによる交流を実施した。 【時期】 ２学期中、３学期中　計２回 【対象学年】 三朝小、多賀小　３年生全員 大滝小　３年生以上児童 【交流内容】 クイズ形式による各学校の紹介 地域学習の成果発表	【成果】 昨年度に初めて学校間でのオンライン交流を実施し、今年度は回数を２回に増やしてオンラインによる授業交流を実施することができた。 【課題】 派遣によらない交流を継続していく方針となったことから、具体的な取り組み内容を令和６年度に検討し、持続可能な交流体制を構築していく。	A			◎生徒から提案を募るなど、派遣によらない交流は工夫を凝らして継続してもらいたい。 ◎本町がこれまで取り組んできたＩＣＴのノウハウを生かし、充実した交流となることを期待する。 ★回数を増やしての交流は、お互いを知ること、伝えるという面でもプラスになると思う。	16. 小学生相互交流事業 →令和６年度は多賀町教委が来町し、今後の交流のあり方を検討することになっている。息の続く交流となるよう、どのような工夫が取り入れられるか検討したい。
	18. 三朝町・城陽市文化スポーツ交流事業	継続	参加者数 →上限の70%以上 参加児童の交流満足度 →70%	姉妹都市盟約(H24～)を締結する京都府城陽市と、両市町の児童を対象にスポーツ活動・文化活動を通じて相互に体験交流学习を行う事業。 新型コロナウイルスの影響により、令和２年度から令和４年度の３年間は事業中止となったが、コロナ過明けの令和５年度は本町受入により事業が再開された。	【成果】 令和５年度はコロナ過明けとなり、実に３年ぶりに事業が再開され、今年度は三朝町への受入を行った。 台風接近の影響のため１泊２日の短縮日程となったが、参加児童（城陽市児童を含む）のアンケートにおける満足度は95%だった。 また、本町受入年の開催で初めて、本町の児童定員20名を超える申込数となった。これは児童・保護者を対象とした事業PRのプレゼンが効果的だったと考える。 【課題】 令和６年度は城陽市の受入年。令和７年度は本町受入年となるが、野外キャンプについて気候の変化による安全面や資機材の準備面から協力者の負担増となっており、事業行程や内容について今後、見直しを行う必要がある。	A			◎協力者の負担は抑えなければならないが、県外の生徒を町内へ迎え入れることで「ふるさと愛」の醸成につながると思う。 ◎交流は継続することに意味があると思う。 訪問交流が再開したことは非常に意義深い。オンライン交流も含めて、充実した取り組みとなるよう期待する。 ★オンライン交流も意義があると思うが、実体験で得られることは大きいと思う。事業行程や内容を見直ししながら継続してほしい。	18. 三朝町・城陽市文化スポーツ交流事業 →令和６年度は城陽市への訪問の年となり、翌令和７年度は三朝町が受入の年となる。協力者の負担軽減を十分に踏まえながら、実体験での交流を軸に創意工夫を凝らした事業内容を検討したい。
(6) 教育コミュニティづくりの推進 Ⅰ． 地域一円の学校支援	25. コミュニティ・スクール推進事業	継続	学校運営協議会の開催 学校ボランティア登録者のボランティア実施率 →70%	学校運営協議会委員の委嘱 小学校　14名 中学校　16名 学校運営協議会の開催 小・中合同開催も併せて　３回開催 ・ボランティア登録者数　29名 ・延べ活動日人数　139名	【成果】 学校運営協議会を小中合同も併せて３回開催。また、先進地（日野学園）への視察研修を行ったほか、運営協議会として目指す子ども像『ふるさと「みささ」を愛し、主体的に行動できるみささっ子』の実現に向けた協議を行った。 ・登録ボランティア実施率93.1% 【課題】 次年度から専任の地域コーディネーターを設置し、学校運営協議会の体制及び地域学校協働活動の取り組み強化を図るとともに、地域参画の機運を高めるべく、活動状況を広く町民へ周知する。	C	C	C	◎「地域とともにある学校」となるために、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の存在を広く町民へ周知してほしい。 ◎地域コーディネーターの活躍に期待している。 ◎コミュニティ・スクールの導入を、町民はもちろん教職員もしっかり理解し、地域とともにある学校づくりに全力で取り組んでほしい。 ★手探りの状況から運営体制の共通理解が得られ、今後はコーディネーターの設置とともに三朝町に即したコミュニティ・スクールの運営が推進されることを期待したい。 ★コミュニティ・スクールの周知をしていく必要がある。	25. コミュニティ・スクール推進事業 →地域コーディネーターを設置し、学校と地域のニーズの把握と情報共有を進め、学校支援ボランティア等による地域学校協働活動の充実を図る。 また、コミュニティ・スクールの活動状況を広く情報発信することで地域住民等への理解を深め、今後の地域学校協働活動のさらなる活性化につなげる。
(7) 教育環境の充実 Ⅱ． 学校施設の整備充実	28. 小学校施設整備事業	継続	実施設計内容に沿った建設工事の円滑な進捗管理	実施設計に沿って、新たな小学校施設の整備に向けた建設工事及び工事監理等の契約を締結し、工事を進めている。 また、基本計画に基づいて必要な契約を順次締結し、工期内の工事完了に向けて進捗管理を徹底している。 加えて、工事完了後の施設等使用についても、小中学校間で協議を行い、円滑な供用開始に向けている。	【成果】 実施設計に沿って工事に着手し、関係者で協議を重ねながら工事を円滑に進めることができた。加えて、工事後の施設使用等についても小中学校間で綿密な協議を行っている。 【課題】 グラウンド使用等については、供用開始後も不便が生じる部分があるため、引き続き最適な使用方法の検討を両校で進めていく。	A	A	A	◎グラウンドは、授業での使用はもちろんだが、休憩時間の友達との関わりや、発散の場でもあると考えるため、上手く共用できるよう整備を期待する。 ★計画通りの工事進捗が行われた。今後は、同一敷地内で運営される小中の連携による相乗効果を期待したい。 ★グラウンドの使用については不便さを感じるので、検討をお願いしたい。	28. 小学校施設整備事業 →工事中はグラウンドが旧小学校のみとなり、使用が制限され不便な状態となってしまうが、完成後はこれまで以上に小中で使用の協議を行い、円滑なグラウンド使用につなげたい。

評価の基準（4段階評価）	
ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

令和5年度三朝町教育事業計画における重点項目

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(2) 豊かな心の醸 成 Ⅱ. 情操教育の推 進	37. 部活動地域移行 に向けた取り組 み	新規	部活動地域移行 検討委員会の開 催	三朝町部活動地域移行検討委員会を設置し、 本件に関する意見交換及び現状把握を行っ た。 【検討委員の委嘱】 ・ 9名 ・ 学識経験者 1名、学校代表 2名、 保護者代表 2名、部活動担当教諭 1名、 地域スポーツ団体 3名 （スポ少、町体協、スポ推） 【委員会の実施状況】 ・ 第1回（R5.6月） 三朝町の現状説明、意見交換 ・ 第2回（R5.10月） 県計画の説明（県体育保健課） ・ 第3回（R6.2月） 課題・対応案の抽出（ワークショップ）	【成果】 ・ 検討委員会を設置することで、部活動地域 移行について関係者と協議を始めることがで きた。 ・ ワークショップ形式の検討を行ったことで 地域移行に向けての課題点、それに向けての 対応案を抽出することができた。 【課題】 ・ 地域移行における課題を抽出したが、現実 性のある方針、手法の検討には至っていな い。 ・ 県内各市町村の動きもまちまちであり、県 で状況を取りまとめ情報共有を図るととも に、本町と学校規模や地理的条件等の類似町 の取り組みについて引き続き情報収集を行う 必要がある。 ・ 部活動ではなく「スポーツを楽しむ土曜 日」としての対応可否について、関係団体 （町体協、スポ少、スポ推）へ照会すること を検討する。	B	B	B	◎今後の道筋がまだ見えてこない状況であ り、課題解決の糸口が見えない。 ◎地域の理解が不十分、指導者不足、校舎利 用が必要な部活の在り方、保障と会費の問 題、大会運営役員等の見直し等、現状の部活 動より活動しにくくなるのでは？ ◎保護者にとっても不安案件であるため、で きるだけ早急に対応方針を示す必要があるの ではないか。 ◎部活動の地域移行は避けては通れない状況 となってきたが、早急に結論を出すのは 難しいと思う。本町として最適な取り組みと なるようじっくり検討してほしい。 ★検討委員会を設置し協議されているが、ま だ方向性が見出せていない。地域の受入体制 を早期に整え、現場が混乱しないよう具体的 な体制を明確にする必要がある。 ★小さな町での部活動の地域移行は難しいと 思うが、生徒がやりたい部活動ができないと いう状況にならないようにしていただきた い。子どもたちにとって中学校生活は3年間 という短い期間なので、早く方針を示してほ しい。 ★三朝町単町の取り組みだけでは難しいと思 う。例えば、中部地区1市4町で受け皿をつ くったり、生徒の会場への交通を確保したり するなど、戦略を持った取り組みが大切だと 考える。	37. 部活動地域移行に向けた取り組み →令和6年度内に「休日における部活動の在 り方」について方針策定を目指す。 「中学生の地域参画」及び「地域と学校と の協働」といった視点を持ちながら、部活動 に限らない活動形態も検討する。 町内のスポーツ、文化団体に対してアン ケートを実施し、幅広い情報や意識を収集す る。これにより地域が中学生の活動を支援し ていく可能性を検討していく。 中部地区市町とも密に情報共有し、中部一 体となった取り組みを検討する。

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達 成 度
ランク A	80%以上の達成
ランク B	相当程度達成（79%～60%） 著実に進捗
ランク C	やや不十分（59%～40%）
ランク D	不十分（39%～20%）

（１）未来を拓く「生きる力」を育てる「みささ教育」の実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(1) 確かな学力の育成 Ⅰ．学ぶ意欲の醸成と学力向上	2．学力アップ土曜学習事業	継続	高校生ボランティア等の参画による集合学習体制での学習会実施	中学校3年を対象とした学力向上講座を夏季休業中に実施した。8月1日から10日までの8日間で延べ96名の参加があった。指導については、高校生ボランティア及び短期大学、鳥取看護大学の学生ボランティアを募集し、鳥取短期大学、鳥取看護大学の学生8名に協力いただいた。 中学校…年8回	【成果】 ・コロナ感染症が5類に移行したことで、対面での実施に28名の応募があった。静かな環境で落ち着いて自分の決めた課題に取り組む姿が見られた。 ・学生ボランティアの参加は、生徒にとってよい刺激になった。 ・生徒はタブレットも活用しながら計画的に学習を進めていた。 【課題】 ・初めて出会う学生ボランティアには、中学生がなかなか質問しにくい様子があり、ボランティアとしての活躍の場がほとんどなかった。そのため、単に学習の場を提供しているという形になってしまった。 ・来年度は、A L Tや国際交流員との英語を中心とした取り組みを計画する。	B	B	B	◎学生ボランティアによる学習会は大変良いことであるが、質問しやすい環境を構築することで一層効果が得られる。 ◎A L Tや国際交流員との英語を中心とした取り組みもそれなりの効果は期待できと思うが、高校生や大学生等のボランティアの取り組みについて、導入時の関わり方（関係づくりなど）を工夫してみてのA L Tや国際交流員の活用なのか疑問に思う。学習指導だけではなく、高校生活や大学（短大）生活に関することも質問することができるなど、高校生や大学生にチューター的な役割を持ってもいい、未来への希望を持てるような取り組みも入れていくことも、夏休み以降の学習へのモチベーション向上につながるものではないだろうか。 ★学生ボランティアによる学習機会は相互に良いことなので、取り組みの充実と継続をお願いしたい。 ★夏休みのこの事業は良い取り組みだと思うので、継続してほしい。	2．学力アップ土曜学習事業 →令和3年度から、生徒の自主学習をサポートする形でボランティアを募集した。令和3・4年度はコロナ禍により中止。令和5年度は生徒が教材を持参したうえでの自主学習を基本としたことに加え、質問しやすい関係づくり等を行わなかったことから、課題が残る事業となってしまったと反省している。 今年度は、生徒がより主体的に参加でき、楽しみながら力を伸ばしていく場を提供したいと考え、英語でのコミュニケーション活動に絞った取り組みを計画している。今年度の取り組みの結果を受け、来年度以降、学生ボランティアの参加を依頼したいと考えている。
				英語授業の強化と国際理解を深める授業の補助を行い、国際理解教育を推進した。外国語指導助手を小中学校に各1名ずつ配置。令和4年12月以降各校1名の配置となった。 小学校A L Tは、月1回園での英語活動を実施、また、授業がない曜日には中学校A L Tと連携をとり、中学校の授業もサポートしている。2名とも非常に優秀であり、日本語でのコミュニケーションも優れているため、児童生徒の英語活動に大きく貢献している。	【成果】 ・中学校3年生を対象とした国調査及び県独自調査（英検I B A含む）では、英検3級以上合格レベルに到達した生徒が95%となった。 ・2名のA L Tは熱意をもって児童生徒の英語学習に尽力している。生活にも慣れたため、今後の活躍に期待する。うち1名は月1回、園での英語活動を実施している。 ・2名とも教職員のみならず、児童生徒との関係も優良。 【課題】 ・A L Tが希望する活動内容に取り組んでいくためのサポート。 ・令和6年度からの、夏季休業中の英語を中心とした学力アップ講座実施に向けての連携。				◎A L Tが熱意をもって対応してもらっているのは大変良いこと。児童生徒の英語力UPに向けて積極的に取り組んでもらいたい。 ★A L Tが熱意をもって取り組まれていることは、学力アップにつながると思う。 ★A L Tの児童生徒との関係が優良ということ、英語がより身近なものに感じられると思う。	
(1) 確かな学力の育成 Ⅲ．特別な教育的ニーズへの対応	5．学校運営支援員配置事業	継続	特別支援に関する研修会 →年2回 就学前訪問 →各園年3回	教員の指導力向上や各種教育の理解のための指導助言及び研修会実施のコーディネート、さらには就学指導に係る連絡調整等を行うため配置する。 特別支援教育に関する研修 年2回 各園就学前訪問等 各年3回以上 学校図書館担当者会 毎月実施 就学指導及び特別支援に係る研修会等を計画し、関係機関と連絡調整しながら実施する。	【成果】 ・移行支援会議で引き継がれた事柄が、就学後の適切な指導や支援、環境設定に生かされているかを確認し、必要に応じて指導や助言をすることができた。 ・園、学校を訪問し、関係機関との情報を共有することでスムーズな就学指導につながった。 ・小学校の学校図書館の整備が順調に進んでいる。 【課題】 ・適切な就学指導に向け、考え方や手順等について学校へ丁寧な説明と指導が必要。	A			◎適切に研修を行い、引き続き個人の個性に合わせたきめ細かな支援をお願いしたい。 ★・園小、また関係機関との情報共有や対話をすることで、一人ひとりの理解を深めていくことをこれからも継続して取り組んでいきたい。	
	6．通級指導教室事業	継続	小中学校各教室の年間を通じた適切な運営	通級指導教室の適切な運営のための指導及び助言を行う。また、通級指導教室利用を検討する児童生徒について、在籍学級における状況を把握するための訪問を行う。 通級指導教室担当者会 年11回 学校訪問 随時	【成果】 定期的な通級指導教室担当者会により、指導目標を確認し、指導内容や方法等について協議、研修を行うことができた。 【課題】 学んだことを通常学級で生かすことができるような適切な目標設定と指導内容についての共通理解。				◎令和6年度から中学校に通級指導教室が設置されなくなることから、希望している生徒たちの支援をしっかりと行ってほしい。	6．通級指導教室事業 →小学校通級指導担当者に兼務発令をかけ、中学生の指導を実施する。

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達 成 度
ランク A	80%以上の達成
ランク B	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランク C	やや不十分（59%～40%）
ランク D	不十分（39%～20%）

（１）未来を拓く「生きる力」を育てる「みささ教育」の実現

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(2) 豊かな心の醸成 I. 豊かな心の育成	7. 特別支援教育事業	継続	特別支援教育支援員に対する研修機会の提供	支援が必要な児童生徒をサポートするため、支援員を配置し、学習時間の困り感に対応するとともに、学習意欲の向上のために個に応じた支援を継続した。 支援員を配置計画に沿って配置（小学校2名、中学校1名） ※小学校もう1名について配置できず ※中学校もう1名は県費として配置	【成果】 ・支援が必要な児童生徒の特性や困り感、目標等について、担任や授業者だけでなく支援員も情報を共有しながら、適切な支援に結び付くよう取り組みを進めている。 ・保護者の気持ちに寄り添う対応や丁寧な説明、何かあったときの早期対応を心掛け、概ね保護者との良好な関係を築くことができています。 【課題】 ・支援員に対する研修は実施できていない。授業スタイルや内容、教科等によって、必要な支援が異なるため、授業者との連携が何より大切である。来年度は、1単位時間の授業を参観し、支援のあり方について助言していくこととする。	C			◎授業者との連携が重要ではあるが、R4の意見でも挙がっている研修ができていないという実態が残念。 ★細やかな支援が行われていると思う。 ★研修は必要だと感じる。また、担任や授業者との情報共有は、個別の支援が必要な児童生徒だけでなく、その他の児童生徒においても必要なので、支援員と担任が話し合う時間の確保をお願いしたい。 ★支援が必要な子どもの数だけ、支援の数もあると思う。支援員さんの研修の充実が必須だと考える。	7. 特別支援教育事業 →令和5年度の反省を踏まえ、すでに授業参観と指導助言を実施した。今後も定期的に授業参観を行い、必要な支援について助言するとともに、研修を実施する。 学校に対しては、個別の支援計画、個別の指導計画、支援会議等の情報についても必ず共有すること、担任と支援員の毎日の情報交換を密にするよう促していく。
	10. いじめ、不登校対策事業	継続	心の状況調査 →小学校年1回、中学校年2回 調査実施後の個別教育相談 →年1回以上	児童生徒一人ひとりの学校生活における心の状況を把握し、いじめや不登校の未然防止に努めた。 i-check調査実施（中学校年2回、小学校年1回） 調査後に、学級の状況について学年団でアセスメントを行い、その後の個別教育相談に活用した。また、要支援の結果を示した児童生徒については、生徒指導委員会等で取り上げて支援の検討につなげたり、保護者と情報共有したりした。	【成果】 ・いじめ問題調査委員会からの提言をうけ、各校が校内体制の見直しを行い、職員間で再度共通認識、共通実践につながるよう取り組みを進めた。 ・早期発見、早期対応を基本として、適切に関係者会議を開催し、スピード感のある対応ができています。保護者とも連携をとりながら取り組みを進めている。 ・アンケート調査やi-check調査により、生徒指導上の問題の早期発見、早期対応につながった。 【課題】 不登校児童生徒だけでなく、別室登校の児童生徒についても、個々にアセスメントを行ったうえでの対応となるよう会議のあり方について情報提供していくことが必要。	A			◎小さい事象であっても見逃すことなく、先生間で情報共有を行い早期解決に向けて取り組んでもらいたい。 ◎いじめを許さない学校風土を引き続き熟成させてほしい。 ◎教職員の異動等により学校の雰囲気が変わったとしても、色褪せない学校風土をつくり上げてほしい。 ★日々の積み重ねが対策につながると思う。引き続き努力をお願いしたい。 ★児童生徒の気持ちに寄り添う関わりをお願いしたい。	10. いじめ、不登校対策事業 →年度始めには、令和5年度に各校で見直した「いじめ防止基本方針」について確認を行うとともに、今後も定期的な研修を開催する。 「未然防止」の取り組みとして各校が挙げている内容（わかる授業づくり、教師自身の言動、自尊感情を高める取り組み等）が教職員の意識の中に定着するよう、校長会においても定期的に確認していく。
	11. 不登校対策支援員配置事業	継続	中学校不登校出現率 →前年度以下	不登校生徒に対し、自宅への迎えなど、通学を促す支援を行った。 支援員配置（1名） 不登校児童生徒数 H30 5人 R元 19人 R2 15人 R3 15人 R4 10人 R5 14人	【成果】 ・別室登校児童にも学習の機会を保障するために、担任や教科担当等と連携をとりながら学習を進めることができた。 ・中学校では、中部子ども支援センターやフリースクール等とつながり、変化が見られた生徒が7名ある。 【課題】 ・小学校不登校児童は3人（R4は1人）、中学校不登校生徒は11人（R4は9人）と増加した。学校と保護者の思いが一致しないことがあり、変化が見られない現状がある。家庭連絡、家庭訪問等、教員の負担は増している。スクールソーシャルワーカーの配置について、効果的な活用となるよう検討を続ける。	C	B	B	◎不登校にはさまざまな要因があると思うが、学校と保護者並びにソーシャルワーカー等が情報を共有し、粘り強く対応してもらいたい。 ◎さまざまな対応等で大変だと感じる。ただ、不登校児童生徒が、いつでも学校や先生、友達とつながっていると感じられるような支援や関わりを期待したい。 ★さまざまな要因による不登校への対応は大変だと思う。家族とも連携し、粘り強い支援をお願いしたい。 ★本人と家族が孤立しないような支援を引き続きお願いしたい。 ★小学校から中学校への横断的な指導もだが、5歳児健診等で支援が必要な園児に早くから適切な支援を行うことの重要性を感じる。	11. 不登校対策支援員配置事業 →S S Wの配置に向けては今後の検討事項である。 学校は、不登校児童生徒、及びその保護者への働き掛けや支援については適切に行っており、今後も引き続き丁寧に関わっていくようにする。 5歳児健診の情報は教育委員会も共有しており、就学を見据えた助言等も実施している。適切な支援となるための関係機関との連携について、積極的に情報提供していくこととする。
	12. 心の教室相談員設置事業	継続	心の教室利用者数 →月平均20人以上	生徒が抱えている悩みやストレスなどを軽減するため、心の教室を設置し、いじめや不登校を未然に防止する。 心の教育相談員を中学校に配置。 利用者数 656人／年 相談者数 11人／年	【成果】 ・昨年度に比べて利用者が大幅に増えた。特に1年生の利用が多く、気軽に立ち寄り話を聞いてもらえる場所としての役割を果たしている。 【課題】 多くの利用者がいるために、本当に相談したいと思っている生徒が相談できない状況になっていないか確認する必要がある。	A			◎課題に挙げられていることについての心配は感じるが、気軽に立ち寄れる場所であることも重要である。 ◎学校の中に、ふらっと立ち寄れる場所があることは大切なこと。ちょっと気持ちをリセットする場所としての機能もあると思う。 ◎生徒たちのちょっとした気持ちの変化を察知し、必要に応じてカウンセラーにつないだり、教職員への情報提供の場として機能している。 ★ストレスを吐き出せる場所としての支援を引き続きお願いしたい。 ★相談できる場があることは大切だと思う。	

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達 成 度
ランク A	80％以上の達成
ランク B	相当程度達成（79％～60％） 著実に進捗
ランク C	やや不十分（59％～40％）
ランク D	不十分（30％～20％）

（１）未来を拓く「生きる力」を育てる「みささ教育」の実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(3) 健やかな体の育成 Ⅱ．健康教育の推進	13. 命を大切にする学習事業	継続	授業実施回数 →各校年２回以上	子育て支援の専門家が小中学校を訪問し、学習をとおして命への畏敬や育児の喜びを学ぶ取り組みを行った。 助産師を招へい。 小学校１回 中学校２回	【成果】 ・生命の誕生や心と体の発達・成長を実感するとともに、今ある命に感謝して力一杯生きることの良さについて考えた感想が多数あり、自他の命を大切にすることや自分の言動を見つめる機会となっている。 ・講師招へいを行わない学年においても、年間指導計画に基づき、命を大切にする学習を実施しており、人権教育や生徒指導とも合わせて学びが継続している。 【課題】 小学校では、年２回の予定が１回の実施となった。年間指導計画に沿って、計画的に実施を促す。	B	B	B	◎引き続き、あらゆる機会をとおして命を大切にすることを教育を実施してもらいたい。 ◎今後も計画的に、命についてしっかりと考える時間の確保をお願いしたい。 ★継続的な取り組みをお願いしたい。 ★自他の命の大切さを考える時間の確保は、これからも継続してほしい。	
(5) 豊かに関わる力の育成 Ⅱ．多様な交流活動の充実とコミュニケーション能力の向上	17. 大人の背中運動	継続	子どもよりも大人が相手の目を見て気持ち良いあいさつをすることの習慣化に向けた呼び掛けの徹底	あいさつ、美化、整理整頓など基本的な生活習慣を身に付けさせ、豊かな人間関係を育むことに努めた。 各学期始業式から５日間、あいさつ運動を実施。	【成果】 ・地域の協力を得ながら、毎学期始めのあいさつ運動を実施した。子育て12か条の周知方法を各校で工夫し、保護者だけでなく教職員や来校者にも取り組みが広がるよう工夫している。 ・あいさつに限らず、児童生徒に伝えたい大切なことが大人自身もできているかを振り返る場として、学校においては、職員会の場で校長から定期的に伝えている。 【課題】 ・コロナ感染症が５類に移行し、学校ボランティア等の活用が戻ってきていることから、今後も積極的な活用を促し、大人の頑張る姿、楽しそうな姿等から、子どもたちが気付き学ぶ場となるよう、児童生徒へさまざまな交流の場への参加について情報提供する。	B	B	B	◎子どもからだけでなく、地域の大人からあいさつする環境をつくるのが大切である。 ◎大人でもあいさつをしない、あいさつされても返さない人の中で、児童生徒にどうやって伝えていくのか…。まずは家族、そして学校等日々子どもに関わっている大人が意識することが必要だと感じる。 ◎子どもたちに一番近い、親や家族そして教職員の姿が、強く児童生徒に反映させると思う。 ◎PTA活動をとおした親同士の連携や教職員との連携、コミュニティ・スクールを活用した地域との連携を充実し、大人の背中運動を推進したい。 ◎「先・見・笑・大」相手より先に、目を見て、笑顔で大きな声であいさつができる子どもたちや地域の大人でありたい。 ★12か条の周知だけでなく、どのように家庭におろしていくかを町、学校、地域社会で協力して取り組む体制づくりが必要だと感じる。	17. 大人の背中運動 →学期始めの取り組みではあるが、行政防災無線をとおして町民へ取り組みの周知をすることは意義があると考えている。小中学生とも、あいさつをすれば返ってくることが多い。あいさつが大事だということを理解している大人が、粘り強く子どもたちに働き掛けていく姿勢が大切だと感じる。 子どもたちがさまざまな学習、活動、体験の場でたくさん大人の関わる中で、頑張っている大人の姿、楽しんでいる大人の姿から何かを得てくれることを期待したい。 12か条の取り組みについては、合同園長・校長会にて引き続き検討していきたい。

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達 成 度
ランク A	80%以上の達成
ランク B	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランク C	やや不十分（59%～40%）
ランク D	不十分（39%～20%）

（２）ふるさとを学び・愛する「みささ人（びと）」の育成

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(4) ふるさと愛の 醸成 I. ふるさとを愛 する教育の推 進	19. 創意と特色ある 学校づくり推進 事業	継続	各校で独自の特色ある学習の実施	各学校ごとに創意工夫した事業に取り組み、特色ある学校づくりと児童生徒におけるふるさと愛の醸成に努めた（補助事業）。 小：国語科研究に係る外部講師招へい 感性豊かな児童の心を育むふるさと学習等（消耗品等） 中：映像製作を通じた学習による生徒の理解と教員の活用力の向上（外部講師招へい）	【成果】 小学校ではクラブ活動で生け花体験を実施。中学校では映像製作のカリキュラムに基づき、各学年で必要な技能を身に付け、外部発信に取り組んだ。3年生の人権啓発動画は昨年度に引き続きNCNで放送された。 【課題】 小学校における年間計画の見直しを依頼し、地域に根差した学校づくりとなるよう促す。	A			◎普通の授業と異なり、一人ひとりが主役になれる特色ある学習に取り組んでもらいたい。 ◎創意と特色ある学校づくりを行うための予算措置を100万程度準備し、各校のプレゼンにより予算配分するような仕組みができると学校が本気になって取り組むきっかけになる。 ★さまざまな学習機会をとおして、たくさんの経験を得ることは大事である。取り組みの継続をお願いしたい。 ★中学3年生の人権啓発動画は年々レベルアップしている。生徒にとっても自信につながるし、啓発にもつながると感じる。	19. 創意と特色ある学校づくり推進事業 →中学校は継続して「映像制作」に取り組んでいるが、小学校でももう少し取り組みの見直しができそうである。校長に、事業のねらいを再度説明し、有効な予算の活用を促していく。
	20. 総合的学習事業	継続	各校で体験学習の実施	農業や職場体験など価値ある体験を通じ、主体的に学ぶ力や豊かに表現できる児童生徒を育成することに努めた。 小学校：農業体験、郷土学習 中学校：職業体験など	【成果】 ・コロナ感染症が5類に移行し、校外での体験的な活動が戻ってきた。小学校では、3年生が三朝温泉（旅館等）で働く人から学んだことを、多賀町とのオンライン相互交流で主体的に発表した。5年生の農業体験は、単に米を作るだけでなく、従事する人の思いや願い、優れた専門性、地域環境等について考える貴重な機会となっている。 ・中学校では、職場体験が郷土への理解や愛着、地域社会の一員としての自覚を深め、将来の職業選択に向け、自らの進路へと目を向ける一助となっている。 【課題】 各学年の年間指導計画に基づき、地域の力を生かした学習を進めていく。	A	A	A	◎職業体験は、子どもたちの将来にとって貴重な経験になることはもとより、三朝町全体で子どもたちを育てているという意識が醸成されることから、一層幅広い体験学習を実施してもらいたい。 ◎児童生徒が学校から地域へ外向く授業は、とても良いものだと思う。町内の事業所や旅館を知ること、町内の良さを実際に見て経験して知る良い機会になっていると感じる。こうした取り組みをとおして、将来三朝町で活躍してくれる人材につながっていくのではないかなと思うので、今後も継続していただきたい。 ◎職場体験について、単に働くことを体験するだけではなく、そこで働く方の思いや考え、経営者としての考えやふるさと愛などを取材する取り組みを3～4日間の中に入れていくような職場体験の取り組み方を検討されたい。 ★職業体験をとおして、働くことや事業所のこと、人間関係など多くの学びがあると思う。引き続き取り組んでいただきたい。 ★いろいろな体験により、子どもたちの視野が広がる。また、事前事後の学習により、得るものは大きいと思う。受入側にとっても三朝の子どもをより近くに感じることでできる事業だと思う。	20. 総合的学習事業 →三朝中学校の職場体験「トライワーク」について、令和6年度の事業実施が終了してしまったことから、ご意見は令和7年度に向けて学校へ提案する。

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達 成 度
ランク A	80%以上の達成
ランク B	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランク C	やや不十分（59%～40%）
ランク D	不十分（39%～20%）

（２）ふるさとを学び・愛する「みささ人（びと）」の育成

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(4) ふるさと愛の 醸成 Ⅱ. ふるさとに触 れる機会の充 実	21. みささ町かがやく子どもフェスティバル開催事業	継続	来場者数 →500人 事業参画団体 →10団体	町内の子どもたちの活動や取り組みの成果を発信するとともに、子どもたちと地域の大人たちが関わる機会を創出することを目的とし、今回のテーマを「大人も子ども一緒に体験」と位置付け、事業計画を作成。今年度も多くの団体等に協力いただき、子どもたちにさまざまな体験の場を提供した。 【来場者数428人、参画団体15団体】 ※参画団体の内、新規参画は5団体 中学生ボランティア人数 58名 【主な行事】 (1) 体験発表 (2) ステージイベント (3) 体験コーナー (4) 作品展示 (5) 食育コーナー	【成果】 今年度も事業実施にあたり、多くの団体の参画によりさまざまな体験を提供することができた。ステージイベントも含め、子どもフェスティバルならではの体験ができる機会となっている。 【課題】 体験発表について、来場者の多くは体験活動を目的とした子どもたちが中心であり、成果発表が地域住民に届いていないと感じる（マッチングできていない）。特に、近年は子どもフェスティバルにおいて体験を重視していることから、成果発表の手法についてあらためて検討が必要と考える。	A			◎子どもだけではなく、大人も参加できる（あくまでも子どもが主役だが）催し物があってもよいかもしれないと思う。 ◎中学生ボランティアが困ったりスムーズに進行できなかった場合の、大人によるフォロー体制をしっかりとしておくことが課題だと感じた。来場者が楽しむことはもちろん、中学生ボランティアにも、自信と達成感につながるイベントであってほしい。 ◎内容は充実してきている。近年小学校低学年から下の児童や園児とその家族の来場が目立っており、小学校高学年児童の姿が少ないように感じる。スポ少にも協力してもらい、体験ブースを担当してもらうとかできると、ステージ発表と抱き合わせて参加しやすくなると思う。 ◎中学生のボランティアは定着してきているが、自分たちで1ブースを担当し、計画から運営まで自分たちでできるようになると、もっと積極的な関わりになると思う。そこに高校生の年代や青年層が加わると面白くなる。	21. みささ町かがやく子どもフェスティバル開催事業 →引き続き、子どもたちがさまざまな体験を楽しくできる場として、各種団体と連携し事業実施する。 スタッフとして10代～20代（学生）の事業参画を推進する（高校生や大学生の参画）。
	22. 地域が育てる子ども総合対策事業	継続	あおぞら体験塾参加者数 →40人/回 体験塾に参加して楽しかったと回答した児童の割合 →70%	・野外活動を中心とした体験活動を通じて「やさしく」「たくましい」三朝の子どもを育成するとともに、子どもの健全育成、親子・地域のつながりを創出かつ向上させることを目的に開催。 ・事業の企画・運営をNPO法人里山地域研究会に事業委託することで、子どもにとって地域の大人と深く交流する機会が創出できる。 ・協力スタッフとして、令和5年度から鳥取看護・短期大学学生を対象にボランティアスタッフを募集。2回の行事に延べ8名の学生が参加した。 ・全12回開催（原則毎月第3土曜日に開催）	【成果】 ・参加申込児童数 48名 →目標値40名を達成 ・令和6年2月現在で延べ299名の児童、148名の保護者が参加（ただし12月行事「子どもフェスティバル」は除く）。 ・1回の参加者数平均 …児童30名、保護者15名→合計45名 ・アンケートから見る満足度 回答児童の71%が「よかった」と回答 →目標値達成 回答保護者の92%が「満足」と回答 ・参加児童が野外活動や、校外活動をする楽しさを感じていることがアンケートから読み取れた。 ・児童だけでなく、保護者も本事業に高い満足度を持っていただいている。 ・鳥取看護・短期大学学生のボランティアスタッフ参加は、受託者のNPO法人だけでなく、参加学生からも満足度が高く、今後も募集を継続していきたい。 【課題】 ・事業を受託しているNPO法人里山地域研究会ではスタッフの高齢化が課題となっており、継続的に事業を実施していくための方策を引き続き検討する必要がある。	A	A	A	◎野外活動を中心とした体験活動を通じて、子どもの健全育成、親子・地域のつながりを作り出す良い取り組みだと思う。継続して実施し、ますます成果を上げてほしい。 ★野外体験は、情操豊かな子どもの育成につながる機会だと思う。これらの機会を提供されているあおぞら体験塾の皆さんに感謝し、継続をお願いしたい。 ★家庭ではできない体験の提供を、以前より工夫しながら継続して取り組まれている。スタッフの方の高齢化の課題は切実だと思う。	22. 地域が育てる子ども総合対策事業 →事業費の増額によるファローアップ体制の強化（スタッフ謝金及び田畑管理費の増額、スタッフのモチベーション維持）。 学生ボランティアスタッフの積極的登用（鳥取看護・短期大学、三朝中学校）。

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達 成 度
ランク A	80%以上の達成
ランク B	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランク C	やや不十分（59%～40%）
ランク D	不十分（39%～20%）

（２）ふるさとを学び・愛する「みささ人（びと）」の育成

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
	23. 青少年育成町民 会議補助金事業	継続	時代に即した青 少年育成活動の 支援 賛同団体 → 5 団体以上	・青少年育成鳥取県民会議と連携して各種青 少年育成事業への支援等を行った。 >長期休暇の「やくそく」「生活心得」配布 >啓発資料の配布 （ＳＮＳトラブル、違法薬物等） >「家庭の日」ポスター募集 ・青少年育成三朝町民会議及び三朝町少年補 導委員協議会の選出委員で構成する「三朝町 青少年育成団体における今後の在り方検討 会」（令和５年６月設置）において、新たな 青少年育成団体設立に係る計画案をまとめ た。	【成果】 ・「三朝町青少年育成団体における今後の在 り方検討会」（令和５年６月設置）におい て、新たな青少年育成団体設立に係る計画案 をまとめることができた。 ・新たな青少年育成団体は、子ども・若者と 地域とのつながりを創出する等の活動基本方 針で令和６年４月に設立予定。 ・新たな青少年育成団体の検討が主な活動と なったことから、目標値の達成（効果的な活 動）には至らなかった。 【課題】 ・啓発を続けている取り組みはあるものの、 同会として特筆すべき成果を上げるに至って いない。 ・新年度に向けて時代に即した新たな青少年 育成団体設立の準備を計画的に行うことがで きたため、来年度は子ども・若者に対する育 成の取り組みをさらに推進したい。	B			◎新たな青少年育成団体の活動に期待してい る。	
(5) 豊かに関わる 力の育成 Ⅰ. 社会参画意識 の醸成	24. 青少年団体育成 事業	継続	中学生・高校生 参画事業の実施 中高生のボラン ティア参加	中学生ボランティアの募集(事業単位) 【参加実績】 1　みささ青空体験塾 （１） 7 月「川遊びとＢＢＱ」 7 人 （２） 1 月「雪遊び」 9 人 2　「子どもフェスティバル」 58 人 鳥取看護・短期大学生のボランティア参加 1　みささ青空体験塾 （１） 10 月「稲刈りと芋掘り」 5 人 （２） 2 月「チャレンジクッキング」 3 人 2　みささ魅力発見バスツアー 全 3 回、延べ23 人 3　日本遺産三徳山・三朝温泉を守る会 12 月「環境整備ボランティア」 3 人 4　学力アップ講座” 夏チャレ” 延べ 8 人 5　「子どもフェスティバル」 24 人 中高生ボランティアサークルの設立には至ら ず。 →高校生の町内におけるボランティア活動の 場を創出できなかった。	【成果】 ・昨年に引き続き、かがやく子どもフェス ティバルでは中学生の運営ブースを設置。そ の他業務スタッフの生徒も、自分から仕事を 探し、能動的に活動している姿が多く見られ た。 ・鳥取看護・短期大学学生のボランティア機 会の創出を図り、年間を通じて多くの学生に 本町で活動を行っていた。 【課題】 ・中学生のボランティア参画は例年並みだっ たが、高校生が町内でボランティア活動を行 う機会を創出できなかった。中学生と異な り、高校が町外に所在していることもあり、 効果的な呼びかけができなかった。 ・将来的に看護・短大生の活動を町内の中高 生に身近に感じてもらい、小学校から中学、 高校、大学（短大）と一貫した自走可能な学 生のボランティア活動体設立を目指す。	A	A	A	◎三朝町の高校生が町内で活躍できる場所が ないので、南部町が行っている高校生サーク ルのような組織の創設を希望する。 ◎毎年工夫して取り組んでおられる様子が伝 わってきている。今後とも町民の皆さんや、 ボランティアの生徒や学生さんとのさらなる 交流の機会をつくっていただけるように、大 いに期待している。 ★中学生のボランティアへの参加は定着して きたと感じる。 ★高校生は学校が町外であり、難しいと思 う。各高校にボランティアの情報を発信する ことは難しいか？	24. 青少年団体育成事業 →令和６年４月に「みささ子ども・若者育成 会」を設立し、子ども・若者が地域で活躍で きる機会の創出を目指す。 子ども・若者が楽しみながらボランティア 活動（地域活動）できる事業を実施予定（同 会事業チームで検討）。

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達 成 度
ランク A	80%以上の達成
ランク B	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランク C	やや不十分（59%～40%）
ランク D	不十分（39%～20%）

（３）安心・安全な教育環境整備と地域と共に歩む学校づくり

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(7) 教育環境の充実 Ⅰ． 学校教育における質の向上	26. 教職員指導力向上 研修事業	継続	教職員集合研修 機会の提供 →年３回以上	小中学校が連携し、三朝町教育の充実を図るため、教職員を対象とした研修会（授業参観、講義）を開催した。 ・小中学校合同研修会（１回） 講師：高旗浩志教授（岡山大学教師教育開発センター） 授業づくりについて講師を招へいし、講義を通じて理解を深めた。 ・校内研修会（１回） 講師：権山敏郎教授（大妻女子大学） ※小学校国語 より良い図書館づくりを目指し、関係者を集めて研修会を複数回実施した。 ・学校図書館研修会（３回） 講師：北田明美氏（図書館従事経験者）	【成果】 小学校は、国語科を中心として児童と一緒につくる学習課題や単元構想の方法について理解を深めた。また、小中学校合同で、授業参観、講演会を実施し、学習する主体と集団を育む協同学習の考え方について学び、自己を振り返り、授業改善に生かそうとする意欲を高めた。 【課題】 ・高めた意欲を実践につなげるための校内体制（研究推進を含む）を整える。 ・令和６年度は、相互に授業を見合い、授業づくり、授業改善についての研修を行う。	A	A	A	◎新しい図書館の開館に向け、ますます研修を深められ、素敵な図書館運営をしてくださることを期待している。 ◎研修で学んだことは、各先生方の授業に反映させ、児童生徒たちの学びの質を高める取り組みとしてほしい。	26. 教職員指導力向上研修事業 →令和６年度は小中が相互に授業を見合い、授業づくり、授業改善についての研修を行う。
	27. 学校施設維持修繕事業	継続	小中学校緊急的 維持修繕への対応	小中学校施設の維持修繕を行い、安全で安心して学ぶことができる環境を整備した。 【実施内容】 小学校プール給水管凍結破損等修繕 小学校体育館防虫ネット取付工事 小学校枯松撤去業務 小学校体育館雨樋清掃業務 小中学校消火設備等更新 中学校体育館ステージ横幕修繕工事 中学校外部倉庫屋根修繕工事	【成果】 緊急的なものを含め、対応が必要な修繕工事等の全てを完了。 【課題】 各施設とも老朽化により修繕必要箇所は多数あるが、財源の関係上必要最低限の対応に留め、優先順位をつけて対応する。 また、新築移転後の旧小学校施設については、利用計画に基づいて改修等対応する。	A	A	A	◎今後も安心安全を最優先とした整備をお願いしたい。 ◎安全に過ごせる環境であることを第一に、適宜確認を行うことと、必要に応じて速やかに修繕を行うことをお願いしたい。 ★施設の適正な維持管理に万全を期していただきたい。 ★今後も安全を第一とした整備をお願いしたい。	27. 学校施設維持修繕事業 →緊急的な維持修繕はもちろんのこと、定期的な現状確認と学校との緊密な連携に今後も努めていきたい。
(7) 教育環境の充実 Ⅱ． 学校施設の整備充実	29. 教科書改訂特別事業	継続	学習指導要領改訂及び特別支援学級への進級に伴う教師用教科書・指導書、デジタル教科書等の整備	学校からの要望を受け、教師用教科書・指導書等の整備を適切に行った。	【成果】 学校の要望に沿った整備、予算の確保を行い、教員の指導環境を整えた。 【課題】 特になし	A				
	30. O A 機器等備品 整備事業	継続	小学校校務用P C更新	教育 I C T 機器を計画的に整備した。 小学校校務用 P C 15 台整備 その他、オンライン配信等に必要な機器	【成果】 計画通り I C T 機器の整備を完了。 機器活用が進み、教職員の自発的な活用が促進された。また、これまで以上にオンライン配信の積極的な活用が図られた。 【課題】 更新等考慮した継続的な I C T 機器整備予算の確保が重要。また、整備した機器について適切な運用を図りたい。	A			★適切な対応をお願いしたい。	
	31. 調理センター施設 管理事業	継続	施設の確実な点 検の実施	調理機器、殺菌水衛生管理システムに関しては定期的に点検を実施している。また、毎月害虫防除作業を実施し、衛生管理に努めている。また、機器等に不具合が出た場合は直ちに修繕を実施している。	【成果】 平成30年度から順次実施していた調理センター屋根の雨漏り対策について、今年度は給食車車庫上部の屋根を修繕した。そのほか、故障箇所を適宜修繕した。 【課題】 今後も機器等に不具合が出た場合は直ちに修繕し、安定した給食の提供に努める。	A			◎今後も安心安全を最優先とした整備をお願いしたい。 ★安全・安心な運営に万全を期してほしい。	

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達 成 度
ランク A	80%以上の達成
ランク B	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランク C	やや不十分（59%～40%）
ランク D	不十分（39%～20%）

（３）安心・安全な教育環境整備と地域と共に歩む学校づくり

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(7) 教育環境の充 実 Ⅲ. 児童生徒の通 学支援	32. 放課後児童対策 事業	継続	利用希望児童受 入率 →100% 指導員研修の実 施 →年 1 回以上	旧小学校区単位で放課後児童の居場所づくり として学童クラブを設置。 三朝西は直営、三朝東は三徳地域協議会へ運 営を委託し、年間を通じて児童の居場所づく りに努めた。 令和 4 年11月末より、新小学校建設工事に伴 い、学校稼業日の三朝西学童クラブを三朝小 学校の多目的室で開所することとなった。 指導員研修の機会は年数回、それ以外にも年 2 回程度、自由参加型研修の案内を行った。	【成果】 全学年の利用希望児童を受け入れることがで きている。 令和 5 年度は、これまでの年 3 回程度の教育 委員会と指導員との打合せをミーティングと いう形へ変更して月 1 回開催したことで、以 前より連絡調整を密にする体制をつくった。 大きなトラブルなく対応できた。 可能な予算を活用して、必要な備品等の整備 や修繕等を行い、出来る限り快適な学童活動 環境の整備を図った。 「笑顔あふれる西学童クラブ」を西学童クラ ブの統一目標としてミーティングで決定し た。 専門性の高い指導員の確保は難しいが、今年 度は研修を例年の 2 倍以上実施し、基本的な 役割から支援の必要な場面、危機管理対策へ の学習を多数実施した。 【課題】 令和 6 年度を目途に、西学童クラブについて 施設改修や運営方針の検討を小学校施設検討 と併せて進めていく必要がある。また、児童 の安全な利用のため、指導員の確保が急務。 継続して指導員の確保と障がいのある児童の 受入体制を整備する必要がある。専門性の高 い職員は依然として確保が難しい。	B	A	B	◎学童クラブについては、今後も指導員、保 護者や学校等と連携を図って、安心安全な場 所の提供に努めてもらいたい。 ◎学童クラブは、児童にとっても保護者にと ても必要不可欠な場所であるため、継続的に より良い学童クラブにするための努力が必要 だと感じる。 ◎指導員には、指導員同士の連携と、一人ひ とりの児童に対する共通理解をしていただ き、利用児童と保護者の安心につなげていた だきたい。 ★放課後児童の居場所として、適切な対応を お願いしたい。 ★安心で安全な場となるために、指導員の確 保は必須だと思う。学校、家庭とも連携をと り、子どもたちの心地良い場となるようにし てほしい。	32. 放課後児童対策事業 →小学校の新校舎供用開始と併せ、今後の運 営の方向性を検討する場を設け、利用児童に とって望ましい環境となるための検討を行う こととしたい。 また、さまざまな児童が利用する中、いろ いろな変化に対応できる指導員であるため、 研修を継続して進めていくこととしたい。
	33. 高校生等遠距離 通学費補助金事 業	継続	補助対象生徒の 制度利用率 →90%	集落から役場までの通学費補助に加え、県が 実施する高校生補助制度を活用し、定期券購 入者（7,000円以上）へ補助を行った。 補助制度利用率92.2% 制度利用者95人／対象者103人 ※対象者は入寮者及び他補助受給者除く	【成果】 申請者に対し、保護者負担の軽減を図ること ができた。自転車通学者への補助も含んでい る。 【課題】 制度が複雑であり、制度内容が難しい旨の声 をいただくため、今後も補助申請者へわかり やすい制度説明及び制度改正が必要。	A			◎奥部の生徒は特に、通学費が高額になる。 手続きの簡素化が必要ではないか。 ★支援制度の周知と対応に万全を期してほし い。	33. 高校生等遠距離通学費補助金事業 →令和 6 年度、申請者にとってわかりやすい 制度となるよう研究し、制度改正へ取り組む こととしたい。
	34. 小中学校遠距離 通学費補助金事 業	継続	補助対象児童生 徒の制度利用率 →100%	小学校は定期券の現物給付と最寄りのバス停 まで距離がある児童へ補助。 中学校は 2 km以上の距離を通学する全生徒に 補助。	【成果】 遠距離通学児童生徒の全保護者における経済 的負担を軽減した。 【課題】 特になし	A				
	35. 就学援助事業	継続	対象者への必要 な援助の実施	就学援助対象者 小学校 43名 中学校 29名	【成果】 経済的困窮世帯に対し、学用品費、給食費等 の支援を行い就学の支援を行った。 【課題】 ひとり親世帯の増加など金銭的な部分も含め た支援の継続	A				

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

（４）生涯スポーツ活動の普及と健康な心と体づくりの推進

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(2) 豊かな心の醸成 Ⅱ． 情操教育の推進	36. 中学校運動部活動外部指導者派遣事業	継続	必要な外部指導者等の配置 →外部指導者3人、外部指導員3人	部活動の充実・発展を図るため、外部指導者2名及び部活動指導員3名を派遣した。 【外部指導者】 ・バレーボール部1名 指導回数72回 計224時間 ・野球部1名 指導回数50回 計129時間 【部活動指導員】 ・バスケットボール部1名 指導回数43回 計167時間 ・サッカー部1名 指導回数73回 計196.5時間 ・野球部1名 指導回数122回 計244.5時間 町部活動指導者研修会 年1回	【成果】 外部指導者2名及び部活動指導員3名を配置し、専門性を生かした部活動指導を行った。令和5年度に「三朝町部活動地域移行検討委員会」を立ち上げ、県や他市町の情報も確認しながら進めてきている。 令和6年度は、部活動指導員が1名増の予定。 【課題】 外部指導者が令和4年度から1名減となった。引き続き、外部指導者及び部活動指導員の確保に努めていく。 三朝町の実情に沿った「地域移行」となるよう、引き続き検討を重ねていく。	B	B	B	◎部活動地域移行の関係もあり、外部指導者の確保に努めていただきたい。また、定期的に指導者の活動状況確認を行いながら、適正に指導をしていただきたい。 ◎部活動の地域移行のゴール（着地点）がわからない。総合型スポーツクラブでもないようであるし…。 ◎部活動の地域移行については、先がわからないということから、心配や不安を抱えている保護者も少なくないため、その都度丁寧に説明する必要性を感じる。 ◎国や中体連等の動きに沿うことと、三朝町の地域性を考慮した体制を整えなくてはならないと思う。 ◎三朝町部活動地域移行検討委員会でしっかり話し合わせ、三朝町にあった部活動の在り方を提案されたい。実際に活動するのは子どもたちなので、子どもたちの意見もしっかりと聞き取ってほしい。 ★部活動の地域移行に混乱なく円滑に移行するよう最大限の支援をお願いしたい。 ★外部指導者の確保と三朝町の実情に沿った運営体制となるよう検討していただきたい。また、外部指導者に任せっきりにならないよう、指導者の適正な指導もしていただきたい。 ★三朝町単町の取り組みだけでは難しいと思う。例えば、中部地区1市4町で受け皿をつくったり、生徒の会場への交通を確保したりするなど、戦略を持った取り組みが大切だと考える。	36. 中学校運動部活動外部指導者派遣事業 →令和6年度は部活動指導員1名、外部指導者1名の増である。町としての研修は年1回実施している。部活動指導員は校長の監督を受けての職務であることから、校長からも適切に指導を行うようにしたい。県の研修が年4回実施されるため、参加を促していく。 令和6年度も部活動地域移行検討委員会が開催されることから、その中で、三朝町の実情に即した在り方を検討していきたい。
	38. 三朝町スポーツ少年団補助金事業	継続	団員数 →160人 単位団指導者研修会、支援の実施	令和5年度スポーツ少年団団員数 141名（R4年度 156名） 本補助金では主に指導者に係る費用（年間謝金、保険料、全国スポーツ少年団登録費用、指導者資格講習会費用等）や単位団の育成強化費を支援している。	【成果】 団員数は昨年度と比較して15名程度の減となったものの、各単位団とも活発に活動を展開している。 また、昨年度に引き続き指導者、育成者を対象に倉吉消防署の講師による応急手当研修を実施。特に、近年は全国的に熱中症による重大事案が発生している中で、緊急時に必要な知識について学ぶことができた。 【課題】 部活動の地域移行を見据えると、今後、中学生団員の増加が想定される。この状況も踏まえ、子どもたちが望ましい環境でスポーツが出来るよう指導者の確保や支援を継続していく必要がある。	A			◎児童生徒が、交通手段と交通費等も含め、思い切り自分の好きなスポーツに取り組める環境を整えることが必要だと思う。 ★スポーツの有益性を損なうことのないよう環境整備に努めていただきたい。 ★スポ少においては、活発に活動されていると感じるが、勝つことに重きを置き、子どもたちがケガなどすることがないよう、各単位団への研修や指導をお願いしたい。	38. 三朝町スポーツ少年団補助金事業 →引き続き単位団の活動を支援し、子どもたちのスポーツ活動機会の環境を整えていく。 指導者、育成者に対する研修会を開催し、資質向上に努める。
(3) 健やかな体の育成	39. スポーツ推進委員活動事業	継続	スポーツ推進委員主催事業の企画・実施（スポーツ教室など）	・本町における生涯スポーツの普及推進を図るとともに、スポーツ推進委員の資質向上のため、各種研修に委員を派遣した。 （主な派遣実績） 町スポ少結団式、地域協議会行事、三朝中学校行事、保育園親子会、町スポーツレクリエーション祭	【成果】 ・令和4年度から導入したチーム制により、委員主導の活動に移行している。 ・モチベーションを高く維持した状態で活動が展開されており、中部地区市町のスポーツ推進委員からも注目されている。 【課題】 ・スポーツ推進委員の活動や活用について町民に広く知ってもらう必要がある。 ・令和6年度には、スポーツ推進委員会で活動紹介及び委員派遣周知のパンフレットを作成予定。	A			★以前より、スポーツ推進委員の派遣があるが、パンフレットを作成することで今まで以上に周知されることを期待する。	

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達 成 度
ランク A	80%以上の達成
ランク B	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランク C	やや不十分（59%～40%）
ランク D	不十分（39%～20%）

（４）生涯スポーツ活動の普及と健康な心と体づくりの推進

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
育成 Ⅰ. 体力向上の推 進	40. 三朝町体育協会 委託金事業	継続	各種スポーツ大 会等参加者数 →2,000人	・体育協会主催行事延べ参加者数 757人（R4実績 604人） ・ヨガ教室延べ参加者数 延352人 ※R6. 3. 8現在 （R4実績 延233人） ・郡スポレク祭参加者数 延312人（R4実績 延333人） ・中部駅伝大会参加者数 16人（R4実績 16人） 合計 1,437人（R4実績 延1,186人）	【成果】 ・参加チーム数の減少等で中止となった事業 もあったが、各種事業をリニューアルし昨年 よりも多くの参加を得られた。 【課題】 ・参加者数の目標値に及ばなかったが、延べ 参加者数の多い野球大会が中止になったこと が要因として考えられる。 ・体育協会の会員数が年々減少傾向にある。 スポーツ団体の支援はもちろん「スポーツ機 会の創出」「加盟のメリットや加盟しやす さ」という観点で組織のあり方について検討 したい。	A	A	A		
	(3) 健やかな体の 育成 Ⅱ. 健康教育の推 進	41. 食育推進事業	継続	県産地消率 →95%以上 園小中の食育取 組成果発表 →年1回 給食レシピ公開 →年6回以上	さまざまな経験をとおして「食」に関する知 識と「食」を選択する力を習得し、健全な食 生活と食を通じた健康管理を実践することが できる児童生徒の育成に努めた。 また、町制70周年を記念し、三朝和牛のサイ コロステーキや三朝米を使ったチュロス等、 町内の食材を使った給食を提供した。併せて アンケートを実施し、子どもたちが三朝町の 食材について理解を深めたことを確認した。 関連して中学生が動画を作成し、給食時間に 上映するだけでなく、文化ホールでも町民に 向けて上映した。 地産地消率 93% 園小中の食育取組成果発表 年1回 （文化ホール、みささ図書館掲示） 町制70周年記念給食に係る掲示 （文化ホール） 中学校給食委員会作成動画の放映 （文化ホールロビー） 給食レシピ公開 年8回 （町報に掲載）	【成果】（地産地消） 生産者と積極的に連携を図り、地域の特産を 生かした給食の提供と郷土愛を育てる支援を 行った。 （食育指導） 小学校に生産者を招いて交流給食を実施し、 子どもたちに地元の生産者を身近に感じさせ ることができた。 （成果発表） ・町制70周年記念給食週間及び全国学校給食 週間に合わせ、中学校給食委員会が作成した 動画を、小中学校、文化ホールで放送した。 地産地消の取り組みや給食ができるまで、ま た、食事のマナー等について幅広く学ぶ機会 となった。 ・各園、小中学校の食育の取り組みを町立み ささ図書館にも展示し、多くの町民に取り組 みを紹介することができた。 【課題】（地産地消） 生産者の高齢化により、今後の町産食材の調 達難が懸念される。 また、今年度は県産の食材の供給量が少な かったため地産地消率が減少したが、いまだ 高い水準であるので、郷土の食材利用を引き 続き進めていく。	B	A	A	◎「三朝町の給食は美味しい」だけではなく、地産地消の意義も子どもだけではなく大人にも伝えていかなければならない。また、農業体験を通じてゆくゆくは「三朝で農業をしたい」と思える学習も大切。 ◎子どもの食事は気にするけれど、実際には毎回家庭でバランスの良い食事を作ることが難しく、給食に頼っているという保護者の声を耳にする。安心・安全・栄養満点、そして地産地消を目指した給食を今後も継続して提供していただきたい。 ◎予算を確保し、年に1度は三朝町の食材を活用した、ちょっと贅沢な給食の提供を検討されたい。町制70周年の取り組みで終わってしまうのはもったいない。 ★地産食材のみならず、三朝のソウルフード的な献立も検討いただきたい。 ★地産地消率の高さを維持されており、これからも安心安全な給食の提供を継続していただきたい。 ★三朝町では、地産地消率が県下でもトップクラスであり、素晴らしい取り組みが行われている。しかし、食材の提供者などの高齢化により課題も生じている。 ★台湾やフランスとの交流からそれぞれの国の給食提供、パリ五輪の開催やサッカーワールドカップでの日本との対戦国の給食など、いろいろアイデアが今後も出そう。

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

（５）生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(2) 豊かな心の醸 成 Ⅰ. 豊かな心の育 成	42. 人権啓発講演会 等事業	継続	人権講演会・講座等参加者満足度 →80%以上	・人権教育講座（7月～10月） 参加者242人・5回（前年268人・5回） ・第1回三朝町人権尊重のまちづくり集会 （R5.11.12） ※旧差別をなくする三朝町集会 参加者173人／前年参加者113人	【成果】 ・人権教育講座 就業者でも参加しやすいように5回中3回 を土日開催としたが、参加者が伸びなかつ た。 全ての講座で8割以上が新たな気付きが あったと回答 ・三朝町人権尊重のまちづくり集会 満足度100.0%（大変良い、良い） 【課題】 ・人権教育講座 興味を持ちやすいテーマの選定。 参加者の固定化。 ・三朝町人権尊重のまちづくり集会 講演会講師の選定 参加者の固定化 30代以下の参加者が少ない。	A			◎人権学習は粘り強い呼び掛けと地道な取り 組みが大切だが、研修会に参加されない方へ はスマホなどを活用した学習も一考。 ◎若者世代の参加者増加を期待し、他のイベ ントと組み合わせではどうか。特に子育て世 代には、子どもと一緒に参加できるような仕 組みがあると良いと思う。 ◎他の市町の様子も参考にしながら、参加者 が増えていく取り組みを期待する。とても大 切な事業であり、参加者の多少はあるにして も、継続して取り組んでほしい。 ★大切な事業である。粘り強い取り組みをお 願いたい。 ★中学生生徒と保護者が一緒に参加すること が可能であれば、親子で話をする機会にもな ると感じる。	42. 人権啓発講演会等事業 →若い世代の参加を促進するために、興味を 持ってもらいやすいテーマの選定、参加しや すい研修会のあり方について再考する。 また、大人だけではなく、小中高生やその 保護者が参加する研修会の形態を模索する。
	43. 人権教育推進協 議会委託金事業	継続	人権学習機会の 創出 学習活動延べ参 加者数 →1,000人	・人権学級（10月～12月） 27集落参加者342人 ・人権啓発番組 人権学級等に参加できない方の学習機会 として三朝中作成の人権劇(15分)をケー ブルテレビで放送 NCNで1月から3月まで毎日3回放送 ・部落解放月間に伴う人権標語募集・表彰 小中学校から6作品を推薦してもらい、 チラシ広報に利用 郡同和対策協議会の人権標語に応募 ・人権啓発リボン・バッジの作成・着用 （7月～8月） 町内事業所、保育所、小中学校、役場 各職員等へ依頼 ・大会派遣 第48回人権尊重を実現する鳥取県研究 集会 11名参加（人数制限のため） 第74回全国人権・同和教育研究大会 5名参加 ・広報誌 共に生きる 2月発行 人推協だより 3月発行	【成果】 ・人権学級 昨年度は16集落だったが、今年度は27集落 が開催することができた。特に今年度は従来 のDVD形式のほか、スライドで人権課題を 紹介する形式も行い、多様な人権課題に触れ た。 三朝中との連携により、人権啓発番組を放 送し、人権教育に触れる機会を提供すること ができた。 【課題】 ・人権学級 今回実施できなかった集落を中心に、引き 続き積極的な声掛けを行う。 継続して取り組んでいくことが重要であ り、他の集まる機会を活用した出前講座や人 権啓発DVDなどの貸出、テレビやインター ネットなどを活用した啓発活動も併行して取 り組む。	A	A	A	★さまざまな取り組みで盛り上げようとする 姿勢を評価する。継続が力となると思う。引 き続きのご努力をお願いしたい。 ★人権学級においても、中学生と保護者が一 緒に参加することができると、地域の方とも 話をする機会が持てると感じる。	43. 人権教育推進協議会委託金事業 →人権学級は継続して取り組むが、人権出前 講座の充実により集落単位以外での研修機会 の創出を図る。 中学生と保護者の人権学級等への参加を推 進し、若い世代の意見を地域住民が聞く機会 を設ける。
	44. 人権教育推進員 設置事業	継続	人権教育推進員 のコーディネー トによる人権教 育の実施（人権 学級、人権出前 講座等）	令和4年度に不在であった人権教育推進員を 令和5年5月1日付で配置した。	【成果】 従前にとらわれず、人権教育推進協議会の運 営、人権教育講座や人権学級の企画・実践な どに加え、人権出前講座などにも積極的に取 り組んだ。 【課題】 継続して人権教育推進員を配置し、人権啓発 活動の実施により町民が人権教育に触れる機 会を積極的に提供していく。	A				
	45. 移動図書館サー ビスの充実	継続	各園、子育て支 援センター、東 学童クラブ 計 5か所 →月1回 各集落・事業所 等24か所 →月1回	移動図書館 延べ326か所 集落14か所、施設・事業所9か所、 保育所・支援センター4か所 →移動図書館貸出 48回（3保育所＋支援セ ンター）	【成果】 ・移動図書館車の巡回を概ね計画どおりに運 行できた。また、悪天候（台風など）により 中止の場合、代替日を設定して運行すること ができた。 ・利用者からのリクエストにも応えることが できている。 【課題】 ・高齢になって介護施設へ入所される方など があり、集落巡回の利用者が段々と減少して きている。	A			◎さまざまな企画をしてくださり、素晴らし いと思う。 ★地域の状況等変化もあり、大変なこともあ ると思うが、地域と図書館をつなぐ組み の継続をお願いしたい。 ★利用者のリクエストにも柔軟に対応してく ださっている。	

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達 成 度
ランク A	80％以上の達成
ランク B	相当程度達成（79％～60％） 着実に進捗
ランク C	やや不十分（59％～40％）
ランク D	不十分（39％～20％）

（５）生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(2)豊かな心の醸成 Ⅱ.情操教育の推進	46.子どもたちの読書活動と学習活動を支援	継続	お話会（館内、各園、支援センター、西学童、バイオリン美術館等）→年88回 小中学校学習資料貸出→3,500冊 中学校図書委員選書・配本→年6回 子どもが楽しめる行事→年2回	おはなし会 99回 保育所 50回 支援センター 10回 バイオリン美術館 9回 母子検診時の読み聞かせ 9回・配本12回 西学童 読み聞かせ 21回 学習資料等貸出 小学校 1,718冊 中学校 538冊 中学校 選書・配本 6回 子どもが楽しめる行事 ・こどもの読書週間キャンペーン（しおり配布） ・図書館サイコロくじ（夏休み中実施） ・東学童 読み聞かせと工作教室 8/25・R6/3/29 2回実施 ・図書館へ行こうキャンペーン（主催：県立図書館 共催事業）10/1～12/3実施 ・子どもフェスティバル共催 ものづくりコーナー（あそびの広場協力） おはなし会（みささ語り部の会協力） ・新春企画「本の福袋」絵本と児童書のセット作成	【成果】 ・お話会に手遊び等を取り入れて内容が充実するよう職員が工夫をしている。 ・西学童について、月2回読み聞かせをしている。子どもたちの中には、楽しみにしている様子が見られる。 ・夏休み企画のサイコロくじで、今年はUF0キャッチャーで景品を記したカプセルを取るゲームを追加した。対象は子どもだが、親子で楽しんでもらうことができた。 ・子どもフェスティバルでは、おはなし会とものづくりコーナーを実施した。おはなし会では、みささ語り部の会の協力により、手遊びや紙芝居、絵本の読み聞かせを来場者に楽しんでいた。また、ものづくりコーナーは、町民グループ「あそびの広場」の協力により、クリスマスオーナメントづくりを実施。図書館のツリーにも飾ることができ、図書館への来館を促すことができた。 ・毎月、図書館（町立・学校）担当者の連絡会を実施することで、連携が図りやすくなった。 【課題】 ・読み聞かせ研修を実施し、職員、ボランティアのおはなし会のスキルのさらなる向上を目指す。また、読み聞かせボランティアの発掘・育成を行い、読書活動を推進していく協力者を増やす。	A			◎各種企画の内容の充実など、とても意欲的に活動してくださっているのがよくわかる。今後も期待している。 ◎子どもたちが図書館へ行きたいと思うようなイベントがあり、素晴らしいと思う。マンネリ化しないために、新しい企画も取り入れることをお願いし、今後の企画に期待する。 ★さまざまなイベントや工夫があり素晴らしい。 夏休み企画『サイコロとしょかんくじ』は、未就園の子どもも楽しみにしている企画で、毎年少しづつ「くじ」の引き方を変えて工夫をしている。 学習活動の支援として、R6は現在図書館で使用しているものと同じシステムを各学校へ導入するよう計画している。学校司書とのコミュニケーションを図り、システムの活用により、各学校での子どもたちの読書活動、学習活動を支えていきたい。	46.子どもたちの読書活動と学習活動を支援→R6図書館事業として、春夏秋冬の時期ごとに図書館への来館、貸出を誘導するキャンペーンを実施計画している。 (春)みささ図書館へ行こう！キャンペーン (夏)サイコロとしょかんくじ企画 (秋)【県立図書館主催】図書館へ行こう！キャンペーン (冬)お年玉付き！本の福袋企画
	47.乳幼児の読書に親しむきっかけづくり	継続	ブックスタート→年4回 ブックセカンド→24組 健診時のおはなし会→年6回	ブックスタート 18組 6か月健診を利用して絵本の楽しさ、重要性を親子に体験してもらう。 絵本等をプレゼントする。 ブックセカンド 8組（1歳誕生日前後） 民生児童委員の自宅訪問事業（顔合わせ）に協力。 好きな絵本2冊をプレゼントし、その後の図書館利用につなげる。 健診時お話会（2歳、5歳） 2歳のびのび 3回 5歳児健診 3回 健診時絵本配本（3歳児 3回） その他 ・親子で楽しむおはなし会を開始（5月～12月・3月）第3日曜日午前10:30～（読み聞かせボランティア協力） ・ぬいぐるみおとまり会を実施（11/19） 10名参加（定員）	【成果】 ・ブックスタート、ブックセカンドは幼児期に親子で図書館を利用する契機となっている。 ・出生数が減少しているが、着実な図書館利用につながっている。 ・今年度5月から月1回、図書館内でおはなし会を開始。毎月楽しみに来館される親子もあり、定着しつつある。読み聞かせボランティアもできる範囲で継続的に協力がある。 ・今年度初めて「ぬいぐるみおとまり会」を実施。募集人数10名のところ10名の応募があった。親子共々喜んでいただけたイベントだった。 【課題】 ・家庭での子どもへの絵本の読み聞かせに関し、継続して保護者への啓発が必要。 ・読み聞かせボランティアの人材発掘と育成	A	A	A	◎乳幼児や保護者が本に親しむための働き掛けが素晴らしいと思う。継続して実施され、さらなるレベルアップを期待している。 ★図書館がより身近なものになる仕掛けがたくさんある。今後に期待する。	

（５）生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達 成 度
ランク A	80％以上の達成
ランク B	相当程度達成（79％～60％） 着実に進捗
ランク C	やや不十分（59％～40％）
ランク D	不十分（39％～20％）

みささっ子教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
	48. 人と本の出会い の場づくり	継続	テーマ選書展示 →一般コーナー 10回、児童書 コーナー20回 各種教室の開催 →年27回	テーマ選書展示 58回、うち他団体・町民の 展示15回 季節の話題・社会情勢等の中からテーマを 選び、関連図書を期間限定で展示して利用者 の資料利用への動機付けとする。 【児童向け】入園・入学特集／こどもの読書 週間／母の日・父の日特集／梅雨特集／夏休 み宿題おたすけコーナー／怖い本特集／ハロ ウィン特集／クリスマス特集／節分／ひな祭 り／寄贈図書特設コーナー 等 【一般向け】ヨシタケシンスケ展協力展示／ 本屋大賞／芥川賞・直木賞特集／県立協力貸 出図書コーナー／作家追悼特設コーナー 等 【ヤングアダルト（YA）】14歳の世渡りシ リーズ展示 【郷土資料】テーマ：鳥取の魅力再発見 【点字・LLブック】入口すぐのところにコー ナーを設置 各種教室 ・みささ英語村 月2回（第2、第4土曜 日）計 24回 ・古着リメイク教室 5/20・5/27（作品完成 までの2回連続教室） その他 ・新春企画「本の福袋」 ・町制施行70周年記念事業「ブラインド・ ブック・マーケット」10/27～11/12（48冊提 供、35冊引渡）	【成果】 ・月毎に展示を入れ替えて本の紹介ができ た。 ・定期的に季節に合ったテーマの絵本を探し に来館される利用者が多くおられるため、定 番の季節の展示を行いながら、人気作家の特 設コーナーなどを設定することができた。 ・町制施行70周年記念事業として「ブライン ド・ブック・マーケット」を初めて開催。来 館者の反応はまずまずで、未知の本との出会 いの場として良かった。 ・町民の作品展や地域協議会で実施されたイン スタグラムフォトコンテストの作品展は、 普段来館されない方の来館が多くあった。関 連する図書の展示から貸出につながった。 ・昨年度実施した「着物のリメイク展示」が 好評だったため、今年度は古着のリメイク教 室を行い、図書館利用者からの関心はまずま ずだった。 ・点字絵本、LLブックや触る絵本を手にと ってもらえるよう、入口すぐのところにコー ナーを移動。多くの方に見てもらえ、貸出冊 数も増加した。 【課題】 ・今後も定期的に実施して内容の充実を図る ほか、展示に協力していただける機関を増や す。	A			◎他市町村の方からも、本の紹介コーナーが 素晴らしくて、自分では選ばないだろうなと 思う本との出会いのきっかけになっていて、 図書館に行くのが楽しみだという声を聞いて いる。 ◎普段図書館に馴染みがない方に、まずは図 書館に来てもらうことを目的とした、目新し い企画を取り入れてみるのも面白いと思う。	48. 人と本の出会いの場づくり →町民の作品を扱ったパネル展示は、普段図 書館へ来館されない方（友人、知人、家族な ど）の来館があるので、R6も幅広く声かけを して館内展示ができるようにしたい。 図書館所蔵の資料を活用して『ものづくり 講座』を実施している。R6は、『PPバンドカ ゴづくり講座』と『切り絵でしおりづくり講 座』を予定。ものづくりをとおして本の活用 につなげ、図書館利用者へと期待している。 R5に実施した『ブラインド・ブック・マー ケット事業』は、古本市とはまた違った「本 との出会いの場」「本に対する愛着の循環」 となったと手ごたえがあったので、R6も継続 して事業実施を計画している。少しづつ定着 させていきたい事業だと考えている。
(3) 健やかな体の 育成 Ⅱ. 健康教育の推 進	49. 家庭教育支援推 進事業	継続	園、学校におけ る子育て親育ち 講座の開催数 →園3回、小中 学校各1回	子育て期の保護者への学習機会の提供とし て、町内各園・学校において「子育て・親育 ち講座」の開催を支援。 【実施講座】 ・「親子でふれあい遊び」 講師:衣笠優子 氏 （竹田保育園、参加者27名） ・「子どもの自己肯定感や自信・やる気を引 き出そう」 講師：公認心理士 矢田美恵子 氏 （賀茂保育園、参加者26名） ・「親子で実践！正しい座り方講座」 講師：整体師 名越大志 氏 （三朝中学校、参加者12名）	【成果】 3園、2校のうち、2園、2校で取り組みが 行われ（うち1校は直前にインフルエンザで 中止）、子育てに関連する講演会や講座を開 催できた。（園2回、学校1回） 【課題】 全ての園、学校での講座の開催を目指すとし ても、場合によっては合同開催のように、よ り保護者が参加しやすい開催方法を検討す る。	B	B	B	◎子育て12か条と絡めて、子育て講演会を計 画して取り組んでいただきたい。 ★12か条とタイアップして講演会を行うこと も検討していただきたい。	49. 家庭教育支援推進事業 →子育て12か条との連携を図り、子育て親育 ち講座においても関連した講座となるよう検 討することで、保護者への普及啓発を図る。
(4) ふるさと愛の 醸成 Ⅰ. ふるさとを愛 する教育の推 進	50. 生涯学習講座 「三朝大学」開 催事業	継続	町民の生涯学習 機会の提供 受講者の年間満 足度 →80%以上	全8回の講座を実施（講座内容は受講者代表 7名と意見交換により決定）。 ・事業申込者数 49人(R4実績 45名) ・平均受講者数 29人(R4実績 26名) ・平均出席率 59.2%(R4実績 58.3%) 全8回のアンケート結果 ・「講座内容に興味を持てた」平均90.0% ・「理解しやすい内容だった」平均82.9%	【成果】 ・全体的な講座テーマについて、受講後に 「興味を持てた」と回答する割合が90%とな り、講座の目的を達成することができたと推 測される。 ・令和5年度は講義内容に関する参加者の評 価が高かった。 【課題】 新たな講師やテーマ等、受講者が興味を持た れるような講座内容を提案していきたい（講 師の知名度ではなく、テーマの面白さや珍し さ等）。	A	A	A	◎各講座の前段に、特殊詐欺対策や交通マ ナー（ルール）、免許証の返還問題等を簡単 に学習できれば、社会問題の対策もできると 思う。 50. 生涯学習講座「三朝大学」開催事業 →講座開始前にミニ講座を積極的に実施する よう努める。 （例） ・行政アプリの紹介 ・特殊詐欺被害及び交通事故防止など、地域 情勢に即応した注意喚起等	

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%）着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

（５）生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささっ子教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
	51. 気軽に利用しやすい図書館づくり	継続	入館者 →25,000人 登録者 →7,000人 貸出冊数 →個人75,000冊、団体15,000冊、（移動15,000冊）	入館者数 23,696人 登録者数 7,054人 （新規登録者数 168名） 実利用者 1,396人 貸出冊数 74,896冊 ※団体＋個人 ・個人 60,739冊 （館内 58,279冊、移動 2,460冊） ・団体 14,157冊 （館内 7,544冊、移動 6,613冊）	【成果】 ・入館者数が前年度対比で微増した。館内展示について、町民の方の作品展を多く実施できたことと、地域協議会で実施されたインスタグラムフォトコンテストの作品展示が新たな来館者を促したと考える。資料の貸出につなげたい。 ・県立図書館との共催で全県下の図書館で取り組んだ「図書館へ行こうキャンペーン」で、人気絵本作家のヨシタケシンスケさんの人気にあやかり、10～11月の新規登録者が多かった。 【課題】 ・貸出冊数については平成30年度をピークに減少している。 ・新型コロナウイルスの分類が5月に5類に引き下げられ、旅行等人々の行動が活発化したことが影響していると考ええる。（7月～11月は前年度より入館者数が減少している） ・まずは、図書館に興味を持ってもらう（来館してもらう）ための事業を定期開催することが必要。	B			◎幼いころから図書館へ行く習慣がある子どもは、大人になっても図書館を利用すると思う。幼少期の子どもを呼び込める企画がもっと増えると、同時に付き添いの保護者の入館にもつながり、入館者数の増加につながるのではないかと。 51. 気軽に利用しやすい図書館づくり →ブックスタートでの図書館の紹介から、利用者カードの作成になかなかつながっていない。赤ちゃんが泣いてしまうことなど「静かな図書館」への遠慮からではないかとのことから、遠慮なく来館いただけるようメッセージを添えた文書付きの利用者カード申込書をブックスタートセットに入れてみることにした。 一般利用者の理解や、他の利用者へ迷惑にならないよう静かにするというルールがあることも伝えることは必要だが、図書館は親子で本を読んだり、選んだりする楽しい場所であるという雰囲気づくりと、働き掛けを行いたい。	
	52. より豊かで質の高い蔵書体系の構築	継続	蔵書 →110,000冊	R5年度末蔵書 107,794冊 ・一般図書 62,131冊 ・児童図書 28,326冊 ・文庫本 4,567冊 ・郷土資料 6,588冊 ・点字資料 50冊 ・漫画 409冊 ・外国語資料 283冊 ・雑誌 3,470冊 ・視聴覚資料(AV) 1,970冊	【成果】 ・閉架書庫の整理と除籍をすすめ、蔵書の鮮度を保つよう努めた。 ・音楽等のCDの充実を図った。 【課題】 ・書庫のスペースの上限が見えてきた状況であり、蔵書資料の新鮮さを維持することからも、除籍を進める必要がある。 ・絵本で貸出回数が多いものは、どうしても本が傷むのが早いですが、所蔵スペースの関係でなかなか複本の準備ができない。	A				
	53. ニーズに応えるきめ細かなサービスの提供	継続	リクエストサービス →6,500件 相互貸出サービス →4,000件 相談業務（リファレンス） →2,000件 障がい者サービス →500件	予約処理 4,704件 相互貸借処理 貸出 402冊、借受 2,651冊 相談業務処理 1,392件 障がい者サービス（デイジー図書貸出）466件 多文化サービス（外国語資料のコーナーを継続設置、ディズニー作品や児童書等も配架し、より親しまれやすいサービスにつなげる）	【成果】 ・前年度対比で相談件数（レファレンス）が微増した。郷土の歴史や人物に関する調べ物の相談が多くあり、関係資料の取り寄せなど丁寧に対応することができた。 ・相互貸借の対応も迅速に対応ができた。 ・障がい者サービス（デイジー図書の取寄せ、貸出など）の利用者からも選んだ本が面白かったとの声をいただいております、満足されている。 ・読書バリアフリー啓発展示からライトハウスを紹介し、小学校の学習に役立ててもらった環境の相談につなげた事例があった。 【課題】 ・レファレンス対応の知識や関係資料の探し方などの技術をもう少し上げたい。	A			★引き続き対応力の向上を図り、きめ細かな町民サービスに努めていただきたい。 ★これからも引き続き、ニーズに対応していただきたい。	

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達 成 度
ランク A	80%以上の達成
ランク B	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランク C	やや不十分（59%～40%）
ランク D	不十分（39%～20%）

（５）生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(4) ふるさと愛の 醸成 Ⅱ. ふるさとに触 れる機会の充 実	54. 情報発信の強化	継続	ホームページ更 新 →月５回	月間予定、展示紹介などの内容を定期的に更 新し、ホームページ閲覧件数の増加に努め る。 ・ホームページ更新 70回 子育て応援Instagramへ新着絵本のお知 らせを掲載（1回／月 5冊前後） 11回掲載（55冊紹介） （イベントの広報） ・館内チラシ ・町報 ・防災無線 ・子育て支援Instagram →上記が基本セット ・日本海新聞記事 ・NCNコマーシャル	【成果】 ・館内展示や図書館事業（イベント）を実施 する際には、チラシ、町報、防災無線、イン スタグラムを基本セットに情報発信を行っ た。効果があったのは、館内チラシと防災無 線。新聞記事掲載はあればよい。今後も継続 したい。 ・図書館ホームページを見やすく更新。お知 らせとイベント・展示がわかるようにした。 情報の更新も絶えず行った。 ・図書館行事や季節の展示について写真付き で広報した。 ・町民課が開設している子育てに関するＳＮ Ｓ（Instagram）に新着絵本の紹介を毎 月掲載した。 【課題】 ・図書館利用につながる、よりわかりやすい 案内・情報の提供が必要。また、迅速な情報 発信・更新を行うための情報収集に努める。	A	A	A	★引き続き、楽しくわかりやすい情報発信に 期待する。	
	55. 郷土資料の収 集・適正管理保 存・提供	継続	新規収集・適正 保存 →100冊 展示による周 知・継承 →年1回	郷土資料 143冊を受入（購入11冊、寄贈132 冊） 三徳山・三朝温泉コーナー及び郷土資料コー ナーの充実。 県内発行機関誌の整理及び雑誌コーナーで公 開。 国内外の姉妹都市関係資料の公開。 郷土資料コーナー展示（テーマ：郷土魅力再 発見）年間を通じて図書を展示	【成果】 ・町職員のインフォメーション（お知らせ等 の機能）にて、郷土資料の収集を呼び掛け、 収集することができた。継続して呼びかける こととしたい。 ・利用者からの情報で、町民が発行した資料 を購入することができた。 ・郷土資料コーナーに鳥取県ゆかりの人や作 品を展示し、郷土資料のPRを行った。少し ではあるが、貸出につながっている。 ・チラシやパンフレット、ポスターの配置を 工夫し、PRに努めた。 【課題】 特になし。	A				
	56. 地域住民の活動 発表、コミュニ ティの推進	継続	特集・共催展示 →10回 図書館行事 →10回 ミニ講座 →2回 図書館ボラン ティア推進 →7人	展示 16回（町民・関係機関・団体連携） 世界自閉症啓発デー／西田醇さん典世さん 夫妻作品展／ゴミゼロの日展示／餅月まる、 作品展／男女共同参画啓発展示／岩本謙二さ ん切り絵作品展／平和展／結核予防啓発展 示／世界アルツハイマーデー啓発展示／梶川 満さん写真展示／北方領土問題啓発展示／読 書バリアフリー啓発展示／三朝町の食育の取 り組み展示／地域協議会Instagramフォ トコンテスト作品展／河内一恵さん猫アー ト展／法務局土地・建物の相続登記申請義務 化広報展示 主催行事 各1回 サイコロ・としょかんクジ／古本市／本の 福袋 ブラインドブックマーケット 子どもフェスティバル 図書館コーナー 読み聞かせボランティア協力 4名（三 朝語り部の会） 親子で楽しむおはなし会 読み聞かせボランティア 5名	【成果】 ・町民や団体、行政機関との連携・協力によ り、年間をとおした展示を開催することがで きた。 ・館内展示について、町民の作品展を多く実 施できたことと、地域協議会で実施されたイ ンスタグラムフォトコンテストの作品展が 新たな来館者を促した。 ・親子で楽しむおはなし会（月1回の館内で のおはなし会）は、町民のボランティアに協 力いただいて実施できている。（平均9～10 人の親子が参加されている） 【課題】 ・ボランティアの育成、掘り起こしに努め、 新たな発想から読むことの動機付けにつな がるような事業を検討する必要がある。	A			★展示を目的に来館したり、また、展示を きっかけに新たなジャンルの本を読むこと につながったりすると感じるので、今後の展示 に期待する。	

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達成度
ランクA	80％以上の達成
ランクB	相当程度達成（79％～60％） 着実に進捗
ランクC	やや不十分（59％～40％）
ランクD	不十分（30％～20％）

（５）生涯学び、成長できる豊かな暮らしの実現

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(5) 豊かに関わる 力の育成 Ⅲ. 視野の広い人 材育成の推進	57. 未来を拓けみさ さっ子創造事業	継続	将来の参考にな ったと答えた 生徒の割合 →70%以上	国内外で広く活躍されている方を講師に招き、中学生を対象に、夢の実現へ向けて努力を惜しまず、主体的に生きることの大切さを伝えることを目的とした講演会を開催する。 ①パラ陸上競技 山下千絵氏 開催日：令和5年5月17日(水) テーマ：夢をつかむために 参加者：中学生150人 ②芸人 小島よしお氏 開催日：令和6年1月24日(水) テーマ：夢をかなえるために 参加者：小学3年生～中学3年生344人 【アンケート結果】 「将来の参考になった」 合計100%	【成果】 「将来の参考になった」（「少し参考になった」を含む）と回答した生徒が100%となり、事業の目的は達成できたと考える。 特に、小島よしお氏の講演会は小学3年生以上を参加させた初の試みだったが、講演時間中しっかり集中して講師の話を聴く子どもたちの様子が見られ、夢の実現に向けた意欲の醸成が図れたと思われる。 【課題】 著名な講師であればあるほど、事前の交渉と調整が必要となるほか、条件面でも考慮が必要となる。1年前には次の講師の検討に入れる業務フローを徹底したい。	A	A	A	◎いろいろな分野で活躍している人の話を聞くことで、自分の可能性を見出すきっかけになる。 ◎人選等大変だと思うが、とても良い取り組みなので、継続して実施してほしい。 ◎児童生徒の多くに認知されている有名人が講師ということで、開催前より楽しみにしている子どもたちの声が聞かれた。講演内容もわかりやすかったとのこと。興味を持てる人選はとても良かったと感じる。 ◎小中合同の講演会はとても良かったと思う。著名な方を講師として招へいするためには、ある程度の予算をしっかりと確保しておくことが大切だと思う。 ★各種分野で活躍されている人の体験談は有益であり、講師確保には大変な苦労があると思うが、可能な限り継続をしていただきたい。 ★良い取り組みだと思う。継続して実施してほしい。	

評価の基準（４段階評価）	
ランク	達 成 度
ランク A	80%以上の達成
ランク B	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランク C	やや不十分（59%～40%）
ランク D	不十分（39%～20%）

（６）文化、伝統、地域資源（文化財）の継承と芸術の振興

みささっ子 教育ビジョン 基本目標と 具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(2) 豊かな心の醸 成 Ⅱ. 情操教育の推 進	58. 青少年劇場開催 事業	継続	開催内容に興味 を持った児童生 徒の割合 →70%	児童生徒に優れた芸術を鑑賞する機会を提供し、豊かな情操を培い、子どもたちの健全育成を図る。 事業内容 演劇とワークショップ 開催日：令和5年10月19日(木) 演 者：鳥の劇場 演 目：「がまくんとかえるくん」 参加者：中学生157人 【アンケート結果】 「興味を持てた」合計―%（未実施）	【成果】 アンケートは未実施のため不明だが、当日は演劇鑑賞だけでなくワークショップも行う初の試みとなったところ、積極的にステージへ上がり、演劇指導を受ける生徒の様子が見られた。ただ鑑賞するだけでなく、演者から直接指導を受ける機会もあった今回の取り組みは、多くの生徒に芸術への興味関心を持たせるものとなったように確信できるものであった。 【課題】 成果の検証ができるよう、事業実施後のアンケート調査を確実に行う。 また、小学校低学年を対象とする年度には、園の参加もできる形を検討する。	B			◎事業の実施と、その効果や感想の収集・分析はセットだと考えるため、アンケート等が実施されなかったのは残念。 ◎いろいろな分野の芸術に触れることは大切なこと。今後も継続してほしい。 ★映像伝達が主流となる中で、生の鑑賞機会は大変重要である。試行錯誤の状況かもしれないが、今後とも貴重な機会を継続してほしい。 ★なかなか芸術を鑑賞する機会がないので、今後も継続してほしい。	58. 青少年劇場開催事業 →令和6年度は開催後のアンケートを確実に実施し、児童生徒の豊かな心の醸成につなげたい。
	59. 三朝町将棋フェ スティバル開催 事業	継続	イベント参加者 数 →80人 将棋啓発イベン トの企画	従来、町内で将棋大会を開催してきたことで、県内外における町の将棋大会に対する認知度は高い。この実績を踏まえ、日本の重要な文化である将棋に対する関心を高め、親しみを深める機会を提供することで伝統文化の普及、振興に寄与する。 ・開催概要 令和5年11月25日（土） 町総合文化ホール ・事業委託 日本将棋連盟鳥取県キッズ支部 ・参加者数 来場者95人(R4実績61人) ゲスト・スタッフ24人(R4実績13人) 計119人(R4実績74人) ・事業内容 ① 将棋大会 ② 指導対局会 ③ 将棋体験・将棋あそびコーナー ④ トークショー ⑤ 展示コーナー ・アンケート結果 「とても楽しめた」…83% 「次回も参加したい」…83%	【成果】 ・イベント参加者数の目標値を達成。また町民参加者数は14人と、昨年度から増加した。 ・参加者から事業継続を強く要望される等、満足度が非常に高かったのは大きな成果であった。 【課題】 ・全体的に満足度の高い事業であったが、将棋愛好者だけでなく、将棋の普及という観点からすると一般層の参加をさらに増やす取り組みが必要。 ・町民の参加がいただけるよう日ごろからの普及事業が必要。町民に将棋文化が根付くまでには至っていない。	B	B	B	★普及するために、日ごろからできる取り組みについて検討していただきたい。	59. 三朝町将棋フェスティバル開催事業 →将棋文化の普及を目指したプレイベントを事業委託者と共に検討、実施する。 「見る将棋」の観点で、新企画を実施予定。
	60. 文化振興事業	継続	三朝町文化サー クルの支援 三朝町芸能文化 祭の実施	・文化芸術サークル 18団体 ・三朝町芸能文化祭 令和5年11月26日（日） 町総合文化ホール 出演団体数 10団体（延べ71人） 来場者数 延べ146人 ・町民作品展 令和5年11月22日(水)～11月27日(月) 出展者数 41名（5団体16個人） 作品数 139点	【成果】 今年度も芸能文化祭、町民作品展を実施。芸能文化祭は4時間を超えるプログラムとなり、コロナ禍前の水準に戻ってきている。また、町民作品展についても139点と多くの作品が出展された。両行事ともに町内で文化・芸能活動に取り組む方の成果発表の場となるとともに、観覧者との交流の場となっており、活動を継続されるためのモチベーション維持の一助となっている。 【課題】 文化団体連絡協議会の所属サークルの会員数の減少、高齢化によりマンパワーが不足し、事務局への負担が増加している。今後は両行事のより効率的な運営方法を検討する必要がある。	A			★各種サークル等の発表の場も重要だが、郷土に伝わる伝統的な「さいとりさし」「壁ぬりさんこ」など継承対策も必要だと思う。 ★文化・芸術活動の発表の場として、今後も実施してほしい。	60. 文化振興事業 →郷土における伝統芸能の伝承については、学校協働活動の取り組みを進める中で、地域や団体と連携を図り、児童生徒へ地域文化の継承の大切さを伝えていく。 文化芸術活動の推進については、引き続き所属サークルの活動支援を行うとともに、活動発表の場である芸能文化祭及び町民作品展の開催を支援する。

評価の基準（4段階評価）	
ランク	達成度
ランクA	80%以上の達成
ランクB	相当程度達成（79%～60%） 着実に進捗
ランクC	やや不十分（59%～40%）
ランクD	不十分（39%～20%）

（6）文化、伝統、地域資源（文化財）の継承と芸術の振興

みささっ子教育ビジョン基本目標と具体的施策	具体的事業	区分	R5目標値	事業説明等具体的実施状況	成果と課題	事務局評価	委員会評価	外部評価	◎教育委員の意見(R5) ★教育行政評価委員の意見(R5)	評価への対応・今後の方向性・改善案等(R5)
(4) ふるさと愛の醸成 I. ふるさとを愛する教育の推進	61. 三徳山遺跡発掘調査等事業	継続	神倉「後口山遺跡」調査実施と成果の整理 坂本バイパス計画地の試掘調査実施	・三徳山世界遺産登録運動の一環として、継続して埋蔵文化財の調査を実施した。 ・坂本バイパス計画地について、坪谷川右岸の試掘調査を行った（調査面積35㎡）。 ・三朝町水道事業施設予定地について、遺跡等の包蔵地の可能性があったため、追加で試掘調査を実施した。 （試掘調査2件については報告書を作成）	【成果】 神倉「湯」地点での調査を広範囲に実施し、併せて令和6年度末の報告書の作成に向けて調査結果の整理を行った。 また、坂本バイパス試掘調査及び本泉地区試掘調査を実施し、開発事業との調整を図った。 【課題】 文化財の専門職員の不在等、職員の推進体制の不足を補完するため、県専門機関との連携が必須。 報告書の作成に向けて、遺跡の重要性の根拠等を令和6年度の追加調査により明らかにする必要がある。	B	B	B	◎三徳山の魅力をさらに広く知らしめるためにも、町内外への普及活動がさらに必要。	61. 三徳山遺跡発掘調査等事業 →神倉の発掘調査については令和6年度に調査報告書を作成することから、その調査成果について、調査報告会や現地説明会の開催を検討し、三徳山の新たな価値について普及啓発を図る。
	62. 世界遺産登録促進事業	継続	調査成果報告会 →年1回	三徳山の世界遺産登録への取り組みを推進するため、日本遺産事業と連携した講演会「三徳学講座」を3月に実施予定であったが、講師の体調不良により急遽中止した。	【成果】 「湯」地点の調査を広報で広く町民に周知し、世界遺産登録に向けた機運を高めた。三徳学講座は3月に開催予定だったが中止。 【課題】 「湯」地点での発掘調査の成果を令和6年度作成の報告書の中で精査する。 小中学生や未就学児も含めた地元の子どもたちが、町内の歴史的遺産に触れることができる取り組みを模索する。	C				
	63. 日本遺産活用推進協議会補助金（保存事業）	継続	日本遺産三徳山三朝温泉を守る会の支援	令和3年に策定した「日本遺産を通じた地域活性化計画」に基づいて、普及啓発活動に向けた日本遺産三徳山三朝温泉を守る会が実施する事業に補助金を交付し、日本遺産周辺の環境整備や三徳山行者道の補修（山護運動）などを実施し、普及啓発を図った。 また、地元小中学生を対象に日本遺産アンケートを実施し、その認知度や誇りに思うかなどの醸成度を検証した。	【成果】 会員や地元住民による環境整備や山護運動の実施が普及啓発につながっている（各活動とも年2回開催）。 また、地元の小中学生のほか、鳥取短大・看護大生などが三徳山や三朝温泉に触れる機会を積極的につくるよう推進した。 【課題】 山護運動等住民を巻き込んだ保全活動の継続と、効果的な普及啓発活動の検討が必要。 日本遺産アンケートの結果などをもとに、小中学生や未就学児も含めた地元の子どもたちが日常的に日本遺産を意識できる取り組みを模索する。	B			★保小中等への取り組みの継続と充実。また、一般町民への認知度の向上も推進された。 ★三朝の子どもたちが三徳山・三朝温泉などに触れる機会を積極的につくることで、ふるさとを知り、想うことにつながると思うので、これからも取り組んでほしい。 ★保育園長会でも、教育委員会と協力して『三徳山検定 保育園バージョン』を作成し、活用していく。	63. 日本遺産活用推進協議会補助金（保存事業） →地域住民はもとより、地元の保小中学生等に向けた日本遺産の普及活動をふるさとキャリア教育と連携して進め、日本遺産の認知度と「誇りに思える」意識を醸成する。 特に未就学児への啓発として、保育園バージョンの三徳山（日本遺産）検定を各園と連携して実施する。

9 教育委員の活動状況報告

(1) 教育長・教育委員の在任状況

職 名	氏 名	就任(再任)年月日	任期(退任)年月日	保護者
教育長	西田 寛司	令和5年1月1日	令和7年12月31日	
教育長職務代理人	塩谷 俊樹	令和4年10月1日	令和8年9月30日	
委員	加藤るみこ	令和2年10月1日	令和6年9月30日	
委員	村岡 麻梨	令和3年10月1日	令和7年9月30日	○
委員(新任)	松浦 靖明	令和5年10月1日	令和9年9月30日	
退任(任期満了)	石田 仁樹	令和元年10月1日	令和5年9月30日	

(2) 委員の異動

石田仁樹委員の任期満了に伴い、令和5年9月に開催された令和5年第7回三朝町議会定例会において、松浦靖明氏を新たな教育委員とする議案を提案。全会一致で同意され、同年10月1日の着任となりました。

(3) 教育委員会会議の開催状況

① 開催状況

定例会 12回(月に1回開催)

臨時会 2回(令和5年9月及び令和6年3月に開催)

毎月1回の定例会と2回の臨時会を開催しました。会議の内容としては、定例の教育行政にかかる議案や報告はもとより、教職員の資質に関する内容を含めた学校運営や今後の小中連携のあり方についても協議を重ねながら、各教育委員が高い意識を持って、それぞれの専門的見地から議論を行いました。

今後も、「三朝町教育大綱」及び「みささっ子教育ビジョン」の基本理念に基づき、目指す子ども像の実現に向けた各種施策に沿って具体的事業を進めていくための議論を重ねるとともに、地域に根差した特色ある教育活動を展開していくため、教育委員一人ひとりが地域教育行政の重要な決定の責を担っていることを常に自覚し、職務を遂行していかなければなりません。

② 付議件数

区分	内容	件数
議案	規則等に関する事	5件
	議会の議決を経るべき議案に関する事	8件
	人事に関する事	15件
	委員の委嘱等に関する事	9件
	その他	4件
協議	児童生徒に関する事 ほか	16件

③ 会議の詳細

会議名（年月日）	議題等	内 容
第4回定例会 (令和5年4月27日)	第23号	工事請負契約の締結についての議決の一部変更について
	第24号	三朝町部活動地域移行検討委員会設置要綱の一部改正について
	第25号	三朝町部活動地域移行検討委員会委員の委嘱について
	第26号	三朝町人権教育推進員の任命について
	第27号	令和5年度小中学校主任及び主事の任命について
	協 議	通級指導教室の指導希望について
	協 議	鳥取県中部地区教科用図書採択協議会の三朝町教育委員会が選出する採択協議会委員について
	協 議	令和4年度分三朝町教育委員会の事務に関する評価について
	報 告	7件
第5回定例会 (令和5年5月30日)	第28号	令和5年度教育関係費補正予算（令和5年6月）について
	第29号	三朝町教育行政評価委員の委嘱について
	協 議	町立学校教職員の処分について
	報 告	8件
第6回定例会 (令和5年6月27日)	第30号	専決処分の承認を求めることについて（町立学校教職員の処分について）
	第31号	三朝町文化財保護調査委員会委員の委嘱について
	協 議	令和5年度三朝町教育事業計画書について
	報 告	7件
第7回定例会 (令和5年7月27日)	議 事	なし
	協 議	なし
	報 告	9件
第8回定例会 (令和5年8月25日)	第32号	令和6年度から使用する小学校教科用図書の採択について
	第33号	令和5年度教育関係費補正予算（令和5年9月）について
	第34号	令和4年度教育関係費歳入歳出決算の認定について
	協 議	三朝町いじめ問題調査委員会調査報告書について
	協 議	教育委員会所管施設の毀損に係る対応方針について
	報 告	11件
第2回臨時会 (令和5年9月14日)	議 事	なし
	協 議	三朝町教育委員会におけるいじめ問題対応方針について
	報 告	なし
第9回定例会 (令和5年9月22日)	第35号	専決処分の承認を求めることについて（令和5年度教育関係費補正予算（令和5年9月追加）について）
	協 議	なし
	報 告	6件
第10回定例会 (令和5年10月27日)	議 事	なし
	協 議	三朝町教育委員会教育長職務代理者の指名について
	協 議	通級指導教室の指導希望について
第11回定例会 (令和5年11月27日)	報 告	8件
	第36号	令和5年度教育関係費補正予算（令和5年12月）について
	協 議	通級指導教室の指導希望について
	報 告	3件

会議名（年月日）	議題等	内 容
第 12 回定例会 (令和 5 年 12 月 26 日)	第37号	専決処分の承認を求めることについて（三朝町教育委員会事務局職員の人事（出向）について）
	第38号	専決処分の承認を求めることについて（三朝町教育委員会事務局職員の任命について）
	第39号	小学校外国語指導助手の再任用について
	第40号	中学校外国語指導助手の再任用について
	第41号	町立学校教職員の処分について
	第42号	青少年育成三朝町民会議及び少年補導委員協議会の在り方について（諮問）
	協 議	いじめ根絶に向けた今後の対応方針に関する進捗について
	報 告	5 件
第 1 回定例会 (令和 6 年 1 月 23 日)	議 事	なし
	協 議	いじめ根絶に向けた今後の対応方針に関する進捗について
	報 告	4 件
第 2 回定例会 (令和 6 年 2 月 27 日)	第 1 号	令和 5 年度教育関係費補正予算（令和 6 年 3 月）について
	第 2 号	令和 6 年度教育関係費当初予算について
	第 3 号	三朝町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について
	第 4 号	町立学校教職員の処分について
	第 5 号	三朝町教育委員会表彰について
	協 議	通級指導教室の指導希望について
	協 議	三朝町学校給食費単価の改定について
	協 議	みささ生涯学習推進プラン（仮称）の計画骨子（案）について
第 1 回臨時会 (令和 6 年 3 月 12 日)	報 告	9 件
	第 6 号	令和 5 年度末三朝町学校職員人事異動内申について
	協 議	なし
第 3 回定例会 (令和 6 年 3 月 27 日)	報 告	なし
	第 7 号	三朝町教育委員会会議規則の一部改正について
	第 8 号	三朝町立小・中学校管理規則の一部改正について
	第 9 号	三朝町生涯学習推進プラン（仮称）策定委員会設置要綱の設定について
	第10号	三朝町生涯学習推進プラン（仮称）の策定について（諮問）
	第11号	三朝町社会教育委員の委嘱について
	第12号	三朝町文化財保護調査委員会委員の委嘱について
	第13号	三朝町地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の委嘱について
	第14号	令和 6 年度三朝町学校運営協議会委員の任命について
	第15号	三朝町人権教育推進員の任命について
	第16号	町立みささ図書館協議会委員の任命について
	第17号	三朝町心の教室相談員の任命について
	第18号	令和 6 年度小中学校校医等の委嘱について
	第19号	令和 6 年度小中学校職員等の配置について
	第20号	三朝町教育委員会事務局職員の人事（出向）について
	第21号	三朝町教育委員会事務局職員の任命について
	協 議	なし
	報 告	7 件

(4) 小中学校及び園への計画訪問

本町の教育現場の現状と運営状況について把握するため、教育委員と事務局職員及び中部教育局指導主事が計画訪問を行いました。

学校計画訪問は年2回、半日ずつ小学校（前期：6月27日午前、後期：10月27日午前）と中学校（前期：6月19日午前、後期：11月9日午前）を訪問しました。その中で、懇談においては全国学力・学習状況調査等の結果をもとに学習の取り組みについて意見交換を行いながら、今後の進め方についての理解を深める場となりました。

また、町内の園についても、竹田保育園（10月26日午前）、賀茂保育園（11月6日午前）、みささこども園（11月21日午前）へ各1回訪問を行いました。

【教育委員の訪問内容】

- ① 各学校長（園長）への学校（園）運営等（具体的な取り組み）に関する聞き取り
- ② 保育、授業等視察
- ③ 職員との意見交換と指導、助言等

(5) その他の主な活動

本町教育活動の根本である教育大綱の中間見直しと、長年に及ぶ検討事項である生涯学習の町づくり推進計画の見直しについて、総合教育会議及び教育懇談会を開催し、松浦町長及び総務教育常任委員会の各委員と意見交換や情報共有を行いました。

その他、各種研修会へ参加し、他市町村の教育関係機関と幅広い意見交換を行うことで、今後の本町における円滑な教育行政の推進に資する機会としました。

年 月 日	内 容	会 場
令和5年4月17日	鳥取県市町村教育委員会研究協議会・第1回理事会	白兎会館
令和5年6月2日	東伯地区教育委員会連絡協議会定期総会・合同研修会	湯梨浜町中央公民館
令和5年7月13日	中国地区市町村教育委員会連合会研修大会	出雲ロイヤルホテル
令和5年7月21日	鳥取県市町村教育委員会研究協議会理事会・定期総会・研究大会	セントパレス倉吉
令和5年11月29日	教育委員視察研修	喜多原学園
令和6年1月23日	令和5年度第1回総合教育会議	三朝町役場
令和6年2月2日	市町村教育委員会委員研修会	倉吉体育文化会館
令和6年2月21日	令和5年度教育懇談会	三朝町役場